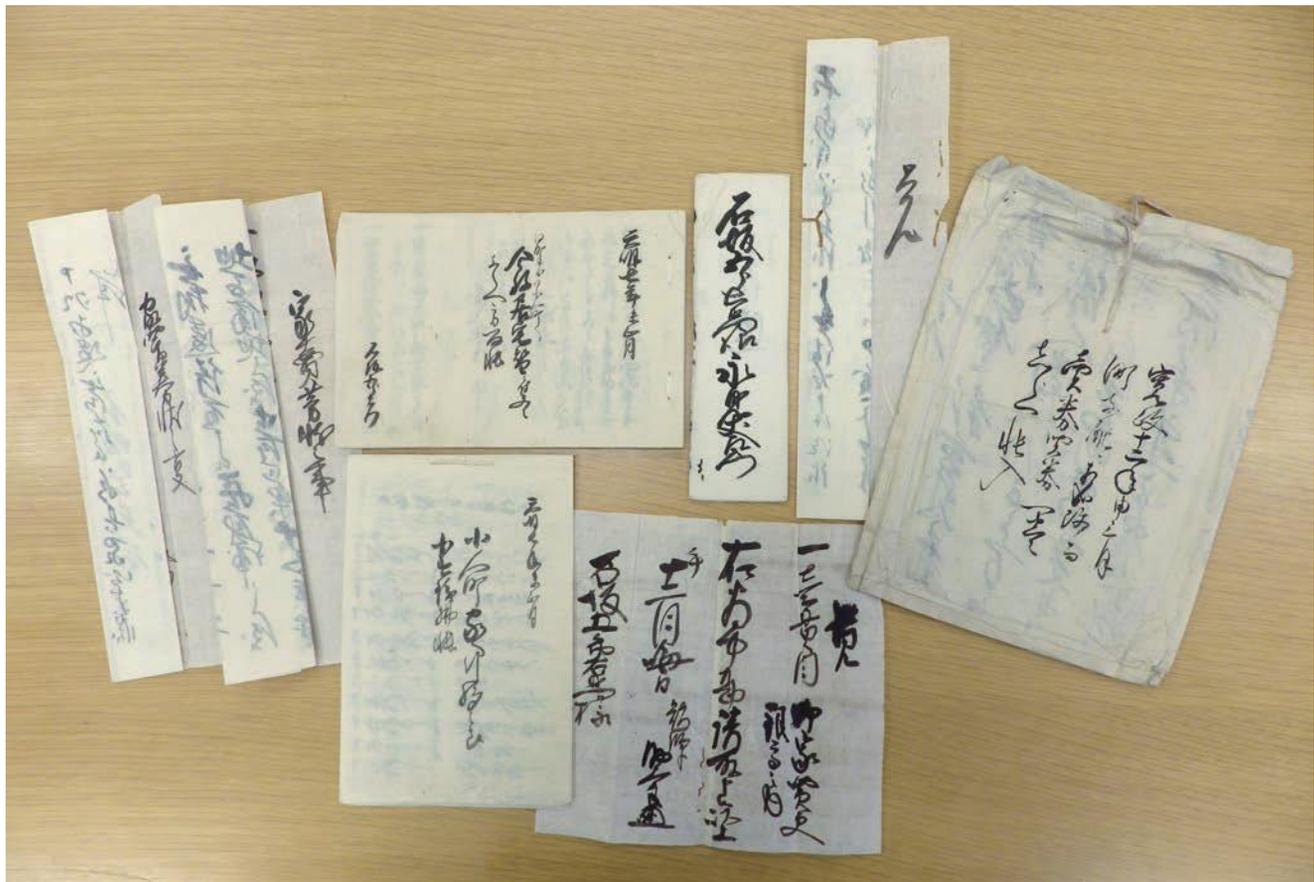
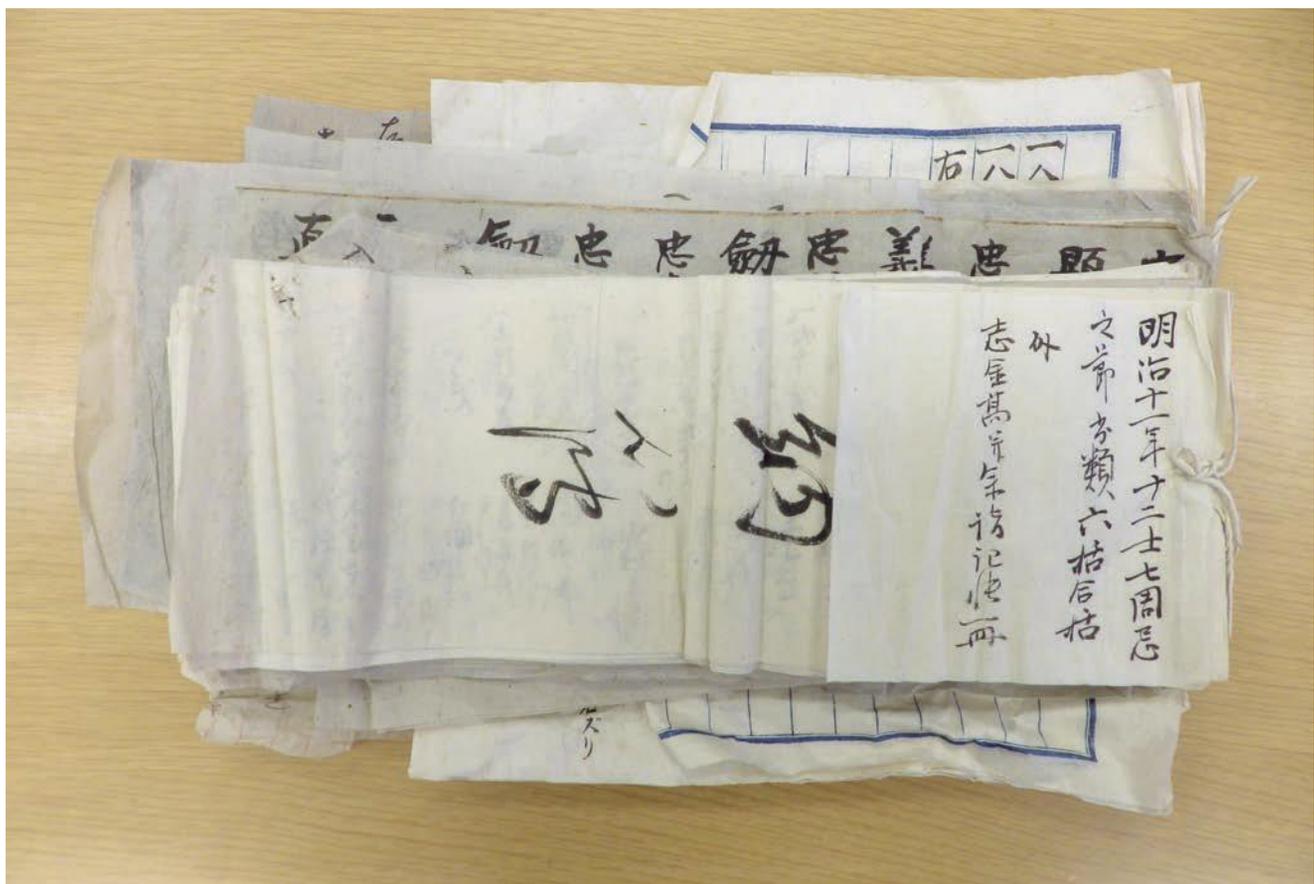


特43 平尾文庫目錄



石坂家御小人町引越一件 43.23-2



十二士七回忌書類綴 43.31-1

序

この度、平尾家・中山家・浜屋家の三家の文書を整理し、それぞれ当館の「平尾文庫」・「瓜生村役人中山文庫」・「浜屋文庫」として保存・公開することといたしました。

平尾文庫は、加賀八家の筆頭本多家の家臣平尾家に遺された文書です。万延元年（一八六〇）に建てられた平尾家の住宅は、湯涌町の「江戸村」に現在移築され、金沢市の指定文化財となっております。

瓜生村役人中山文庫は、藩政後期から明治期にかけての山村の人々の生活の実情が具体的に窺える史料群であります。浜屋文庫は、材木町で質商・菓子商売を営んだ町人で、明治期には堤町に支店を出しています。

加賀藩における武家・山村・町人という三様の文庫は加賀藩・金沢の歴史を総合的に考える貴重な史料でもあります。これらの三つの文庫が新たに近世史料館の文庫に追加されましたことは当館所蔵史料の懐が一層深まったと思います。

これらの史料を保存公開することは、歴史都市金沢における当館の責務であります。今後とも新たな文書群の公開に一層努めてまいりますとともに、公開によりみなさまの歴史都市金沢への理解が深まることを祈っております。

平成三〇年三月

金沢市立玉川図書館

近世史料館

館長 村田 英彦

凡例

- 1、本目録は平尾文庫・瓜生村役人中山文庫・浜屋文庫の三つの文庫目録により構成される。平尾文庫は本多家五万石の家臣平尾家の文書で、平成二六年、歴史都市推進課より移管されたものである。瓜生村役人中山文庫は羽咋郡瓜生村（現津幡町瓜生）の村役人を勤めた中山家に遺された山村文書で、平成二四年度購入史料である。浜屋文庫は、藩政初期は宮腰町で海商を営み、後に金沢城下で質商を営んだ町人文書で、平成二八年度購入史料である。それぞれ本館の四三番目及び四六番目・四九番目の特殊文庫となる。
- 2、目録記載は（分類）番号・（史料）標題・（作成）年月日・差出（作成者名）・宛名・形態・墨付（冊子の場合）・点数の順に記した。標題については原題のままのもの、補足したもの、新たに付したものがあがるが、それらについて各々注記はしていない。史料の作成年月日については、記載のない場合でも推定できるものについては（ ）を付して推定年を記した。冊子物の丁数は白紙部を除いた墨付部の丁数である。次行には内容や内題・巻次等に關わる情報を記した。
- 3、分類については、それぞれ武家文書・山村文書・町人文書と性格が異なる文書群であるため、それぞれの文庫ごとに異なる。各文庫の目次を参照してほしい。
- 4、史料の配列は分類毎に編年を基本とし、年代未詳の場合は干支のあるもの、月日のあるもの、年月日未詳のもの順に配するが、内容により大まかな年代などが推定できる場合はその限りではない。
- 5、標題や解題中に身分上の呼称が出てくるが、これは過去の身分制の肯定や差別の容認ではない。歴史上の事実として存在したものであり、歴史・時代を認識する上で隠すべきではなく、史料にあるがままに表記した。
- 6、平尾文庫の目録作成は岡島大峰（元近世史料館職員、現大阪城天守閣学芸員）が担当し、編集・解説は宮下和幸が行った。瓜生村役人中山文庫の目録作成・解説・編集は袖吉正樹が行った。浜屋文庫の目録作成は見瀬弘美（元近世史料館職員）が担当し、解説・編集は小西昌志が行った。なお、各文庫の史料撰については道下勝太・鎌田康平・安土絢が担当した。なお、各文庫の整理及び公開のための登録作業は本館職員全員で行った。

番号 標 題 年月日 形態 点数

I 家

11 家・由緒

- 1 先祖由緒一類付下帳 寛延2年5月 一紙
- 2 先祖由緒并一類附下書(後欠) 寛政10年 続紙
(平尾善右衛門知新)
- 3 先祖由緒并一類附下書 寛政10年 続紙
平尾善右衛門(知新)↓中川内丞等四人
- 4 平尾善太夫養子一件 2 切続紙
包封有
平尾善太夫↓篠井源五右衛門・富田長左衛門・千秋半丞
- ①養子願につき御内意伺書 (天保5年) 3月4日
- ②養子願につき御内意伺書下書 午(天保5年) 3月5日
- 5 平尾九内履歴(後欠) 1 切続紙
(天保期)
- 6 諸件につき到来物等留 1 長帳(10丁)
文久3年6月5日明治2年12月
- ・文久3年6月4日上京御供及び帰着
- ・同年9月16日鑑太郎出生
- ・元治2年1月6日椿女出生
- ・明治元年3月24日真次郎出生
- ・明治2年12月12日乙作出生
- 7 鑑太郎着袴祝につき諸品留帳 1 長帳(6丁)
慶応3卯年9月19日
- 8 遺書包紙 1 切紙
年未詳
平尾善太夫
- 9 平尾善太一類附控 1 罫紙
(明治初年)
- 10 代理人委任状 1 罫紙
平尾善太(印)
明治16年2月

11 饗応向万事覚帳 明治25年11月5日 横帳(5丁)

平尾

- ・明治25年11月5日秋祭観菊
- ・同26年3月13日真順院殿二十五回忌茶湯
- ・同26年11月18日秋祭観菊、乙作中尉進級、真次郎妻縁披露
- 12 平尾家年譜早見表 (明治) 続紙

12 勤仕

- 1 中小将組申付状(年中銀7枚) 1 切紙
(寛延元年)
↓平尾紋太夫養子平尾善太夫
- 2 役儀御礼につき呼出状 1 切続紙
巳4月朔日
河崎市丞(印)↓平尾紋太夫
- 3 当季家来につき御達書 1 切紙
未3月日
包封有
- 4 御用につき御用所呼出状 1 切紙
3月29日
包封有
平尾紋太夫(判)↓堀四郎太夫・藤田三右衛門・峯七左衛門
- 5 御談につき御屋敷呼出状 1 切紙(切封)
11月29日
井村源太夫↓平尾紋太夫
- 6 御用所呼出状 1 切紙(切封)
12月10日
富田長左衛門↓平尾紋太夫
- 7 中小将組申付状(年中銀7枚) 1 切続紙
(天明9年)
包封有
↓平尾治郎吉
- 8 本多政和叙爵御礼献上品目録控 1 折紙
文政12年2月15日
本多播磨守政和
- 9 雪山隠居御礼承届につき呼出状 1 切紙
(天保12年)閏正月22日
千秋半丞↓平尾雪山老

番号	標 題	年 月 日	形態	点数
10	妻看病につき御暇願 平尾善右衛門(判)↓井村源太左衛門・河崎市丞・土方源右衛門	丑2月5日	切紙	1
11	妻快方につき出番願下書 平尾善右衛門(判)↓井村源太左衛門・河崎市之丞・土方源右衛門	丑2月16日	切紙	1
12	御用勤め難儀につき役義免除願 平尾善太夫(判)↓篠井源五右衛門・富田長左衛門・林勇左衛門・三宅貞右衛門	卯7月24日	続紙	1
13	召出御礼の日時并作法申渡状 千秋半丞(印)↓平尾善太夫	辰12月晦日	切統紙 包封有	1
14	御加用役申付状 井村源太夫(印)↓平尾善太夫	巳正月6日	切紙	1
15	病氣療養につき行歩許可願 平尾善太夫(判)↓中川内丞・井村源太左衛門・富田長左衛門	巳4月17日	切統紙	1
16	御用につき御用所呼出状 富田長左衛門↓平尾善右衛門	午6月29日	切統紙	1
17	病氣療養につき行歩許可願 平尾善右衛門(判)↓中川内丞・井村源太左衛門・富田長左衛門・篠井源五右衛門	申9月3日	切紙	1
18	御用につき御用所呼出状 井村源太左衛門↓平尾善右衛門	酉8月朔日	切統紙 包封有	1
19	御加用役申付状 中川内丞(印)↓平尾善右衛門	酉8月3日	切統紙	1
20	取次番加入申付状 堀清左衛門(印)↓平尾善太夫	戌12月22日	切統紙	1
21	誓紙等見届につき宗門所呼出状 河崎市丞↓平尾善太夫	正月23日	切紙(切封)	1
22	妻看病につき御暇願一件 平尾善右衛門↓河崎市之丞	2月17日	切紙	2
23	②口上書文面調替にて提出申付状 河崎市之丞↓平尾善右衛門	3月晦日	切統紙	1
24	作事所御目付当分加入申付并誓詞等見届につき宗門所呼出状 井村源太夫↓平尾善太夫	5月14日	切紙(切封)	1
25	作事所御目付当分加入より帰役申付状 篠井源五右衛門↓平尾善太夫	6月22日	切紙(切封)	1
26	取次番当分加入申付状 河崎市丞↓平尾善太夫	7月朔日	切紙(切封)	1
27	御用番当分加入より帰役申付状 篠井源五右衛門↓平尾善太夫	8月16日	切紙(切封)	1
28	炮術稽古并御用懸申付状 千秋半丞↓平尾善太夫	9月4日	切紙(切封)	1
29	取次番当分加入申付状 篠井源五右衛門↓平尾善太夫	9月11日	切紙(切封)	1
30	御家中内火事之節心得等写 牧金吾等↓中山久弥・平尾乙作・池田源五右衛門・野治義之助	10月5日	切統紙 包封有	1
31	御用につき御用所呼出状 土方源右衛門↓平尾善右衛門	10月15日	切統紙 包封有	1
32	御公用方書写役等申付并誓紙等見届につき宗門所呼出状 千秋半丞↓平尾善太夫	11月29日	切紙(切封)	1

33	御用につき御用所呼出状	富田長左衛門↓平尾善太夫	12月10日	切紙(切封)	1	47	辞職願	明治35年12月15日	野紙 封筒有	1
34	御厩御目付当分加人より御加用役へ帰役申付状	千秋半丞↓平尾善太夫	12月25日	切紙(切封)	1	48	葵製糸機業場理事平尾鑑太郎(印「平尾」)↓男爵本多政以、執事太田伊豆茂 舞鶴海軍工廠関係等書類留 昭和20〜21年 仮綴(合綴69丁)		1	
35	御厩御目付当分加人申付状	富田長左衛門↓平尾善太夫	12月26日	切紙(切封)	1					
36	誓紙等見届につき宗門所呼出状	富田長左衛門↓平尾善太夫	12月28日	切紙(切封)	1					
37	御用につき御用所呼出状	千秋半丞↓平尾善太夫	12月28日	切紙(切封) 包封有	1					
38	取次番加人申付状	千秋半丞↓平尾善太夫	12月晦日	切紙(切封)	1					
39	御中小将一覽		年未詳	切紙	1	13	知行			
40	泰雲院様御殿より宝円寺迄并宝円寺より野田迄御行列帳		年未詳	小帳(27丁)	1	1	知行目録(新知70石)	正徳5乙未11月日	切紙	1
41	御機嫌伺い等罷出の件につき申付状		年未詳	切紙	1	2	扶持目録(3人扶持)	寛保元辛酉11月6日	切紙	1
42	能州湧浦へ湯治願下書		年未詳	切紙	1	3	拝領目録(白銀3枚)	寛保2年12月14日	切紙	1
43	包封	平尾善太夫↓富田長左衛門	年未詳	包封	1	4	拝領目録(銀3枚)	寛延2巳12月27日	切紙 包封有	1
44	包封	富田長左衛門↓平尾善太夫	年未詳	包封	1	5	知行目録(養父遺知之内50石)	宝暦13癸未12月21日	切紙	1
45	包封	平尾善右衛門	年未詳	切紙	1	6	拝領目録(銀7枚)	寛政元巳酉8月2日	切紙	1
46	包封下書	平尾善右衛門	年未詳	切紙	1					

番号 標 題 年月日 形態 点数

7 知行目録(父遺知50石) 寛政10戊午7月朔日 切紙 1

↓平尾善右衛門
①醬油通帳 明治12年正月〜12月 長帳(2丁) 1

8 知行目録(加増10石都合50石) 文化4丁卯10月16日 切紙 1

↓平尾善右衛門
②薬代受取書 松本薬局(印)↓平尾善太 (明治)12月 切続紙

9 拝領目録(銀7枚) 文化14丁丑12月24日 切紙 1

↓中小将組平尾治郎吉
③かや通帳 ↓平尾善太 明治12年6月 折紙

10 知行目録(加増20石都合70石) 文政9丙戌6月27日 切紙 1

↓平尾善右衛門
④薬代受領書 藤本満作(印)↓平尾善太 明治12年12月30日 切紙

11 知行目録(養父知行70石) 天保6乙未12月26日 切紙 1

↓平尾乙作
⑤公債証書裏書筆耕料等受領書 古川弥兵衛↓平尾・石坂 (明治)12月29日 切紙

12 扶持目録(隠居料5人扶持) 天保6乙未12月26日 切紙 1

↓平尾善太夫
6 金銭元利算用書 永島↓平尾 (明治)13年9月 切紙

13 拝領目録(銀7枚) 安政3丙辰12月29日 切紙 1

↓中小将組平尾善太夫
7 金銭元利算用書 永島↓平尾 (明治)14年5月 切紙

14 知行目録(引直5石) 明治元戊辰9月26日 切紙 1

↓平尾善太夫
8 金銭元利算用書 (明治)15年4月 切紙

15 減知分再加増申渡状 卯10月16日 切紙 1

↓平尾善右衛門
9 資産原簿 平尾氏・石坂氏 明治23〜38年 野紙綴(47丁) 1

14 家計

1 支出留帳(断簡) 文化年間 長帳(断簡) 1

2 引免被仰付につき心得等書上 年未詳 仮綴(断簡2丁) 1

(断簡)
3 納年貢米之事雛形 年未詳 一紙 1

4 公債証書公布につき告諭(断簡) 明治11年8月23日 印刷 2

石川県令桐山純孝
10 真次郎ヨリ預リ金指引覚帳 明治28〜38年 野紙綴(23丁) 1

- ・出納
- ・預ケ金等ノ部
- ・明商預金覚

・十二銀行預金覚

11 所有公債并預金等覚 明治31〜44年 罫紙綴(29丁)

平尾氏

12 金銭収支帳 明治35〜43年 罫紙綴(11丁)

13 借金証文 明治42年4月18日 罫紙

小原市村市右衛門(印) ↓ 平尾鑑太郎

14 資本金台帳 明治44年〜大正9年 罫紙綴(45丁)

平尾氏

乙号

・明治商業銀行預金

・資金増減

15 資本金台帳 大正9年1月 罫紙綴(67丁)

平尾氏

丙号

16 白たび代等受取書 卯12月30日 切統紙

蓮村 ↓ 平尾

17 魚代等指引受取書 卯12月 切統紙

山田屋 ↓ 平尾

18 織物代等受取書 12月17日 切統紙

千田勘兵衛代長兵衛 ↓ 上

19 金沢東京間路費預定 年未詳 罫紙綴(2丁)

15 土地

1 墓地券 明治9年5月 用紙

金沢町墓地取扱所 ↓ 平尾紋三

2 墓地取扱費請取書 明治9年5月 切紙

墓地取扱所 ↓ 平尾紋三

3 地券

① 加賀国金沢区下本多町5番丁33番 明治12年12月

地(宅地282坪6合)

石川県(印)、主事金沢区長相馬朔郎(印) ↓ 同国同区同丁平尾鑑太郎

② 加賀国金沢区下本多町6番丁4番 明治14年10月24日

地(畑1畝20歩)

石川県(印)、主事金沢区長梅原可也(印) ↓ 同国同区下本多町三番丁楠正可

③ 加賀国金沢区下本多町6番丁5番 明治14年10月24日

地(畑6畝26歩)

石川県(印)、主事金沢区長梅原可也(印) ↓ 同国同区下本多町三番丁楠正可

④ 加賀国金沢区下本多町5番丁27番 明治16年3月13日

地(宅地48坪9合)

石川県(印)、主事金沢区長梅原可也(印) ↓ 同国同区同丁平尾鑑太郎

⑤ 加賀国金沢区下本多町6番丁45番 明治20年4月25日

地(畑7歩)

石川県(印)、主事石川県金沢区長稲垣義方(印)

4 金沢営所歩兵練兵場用地選定につき こより綴(7丁) 1

建造移転料関係書類

① 建造移転料等記載書提出願書 明治17年9月25日 切紙

金沢区堅町外七十四ヶ町戸長役場 ↓ 平尾鑑太郎

② 所有宅地・畑地建造移転料并木石 明治17年9月30日 袋綴(6丁)

代価見積書控

平尾鑑太郎 ↓ 某

5 作事二付覚帳 明治33年 横帳(4丁) 1

・横通石垣入費

・土蔵代用物置并前通土塀屋根板葺二葺替料等

番号	標 題	年 月 日	形態	点数
6	石垣土蔵覚書	明治33年子4月8日～11月8日	横帳(15丁)	1
7	・日每人足書上 ・買物覚 土地平面図	年未詳	切紙	1
16 交際・親戚				
1	西村家先祖由緒一類付下帳	天保8年酉6月	袋綴(10丁)	1
2	先刻の返書間違有之につき書状	3月10日	切紙(切封)	1
3	干肴到来の件につき書状	3月28日	切紙(切封)	1
4	①御見舞状 気滞につき御見舞一件	4月17日	切紙、包封有	2
5	②御見舞返書下書 鯉鮓拝領の件などにつき書状	10月11日	切統紙	1
6	御菓子代頂戴につき礼状下書	年未詳	切統紙	1
7	大人病気につき為見舞来訪人名并 贈品覚	明治31年5月	横帳(4丁)	1
8	坪野太郎奉公の件につき書簡	(明治34年)3月16日	一紙 封筒有	1
9	我国実業家のあり方等につき書簡	(明治36年)7月28日	切統紙 封筒有	1
10	和歌中の鶯を杜鵑とすべきことな ど書簡	(明治41年)5月初四	切統紙 封筒有	1
11	戸水当選および人材養成の件など 書簡	(明治41年)5月26日	切統紙 封筒有	1
12	戸水博士の世界併呑説につき書簡	(明治41年)5月28日	切統紙 封筒有	1
13	書画差上の件につき書簡	2月6日	切統紙 封筒有	1
14	華族子弟の家庭教育の件につき 書簡	3月19日	切統紙	1
15	本多閣下草庵遊行の日程につき 書簡	10月13日	切紙 封筒有	1
16	本多閣下草庵枉駕の日程につき 書簡	10月22日	切統紙 封筒有	1
17	本多閣下来遊一件 書簡	17日	切紙 封筒有	3

② 詩歌(東海平中望嶽)

真

16日

③ 詩歌(詠長連龍)

真菊

年未詳

18 妻同行分旅費返上につき書簡

江間三吉↓平尾鑑太郎

11月24日

切紙

1

19 種煤代受領につき書簡

(江間)三吉↓(平尾)鑑太郎

12月初四

切紙

1

20 学校教育奨励寄附金領収証

金沢市新豎町尋常小学校長吉田儀盛(印)↓平尾松雄

大正14年9月9日

封筒有

1

21 金沢市方面事業助成会入会につき

金沢市方面事業助成会評議員中田岩次郎ほか8名↓

昭和4年6月

封筒有

1

22 金沢市方面事業助成会入会一件

① 金沢市方面事業助成会会費領収証

金沢市方面事業助成会取扱者吉田儀盛(印)↓平尾松雄

昭和4年7月4日

用紙

2

② 領収証送付につき一筆礼状

吉田儀盛↓平尾御内室

(昭和4年)7月5日

封筒有

1

23 書簡下書

① 春雷烈しきにつき見舞状并諸品悉く

② 同右(マス目入)

③ 同右(マス目入)

24 教師欠員により出沢延引の件など

書簡(後欠)

25 菓子袋断片

印「加州金沢博労町御菓子」「櫻田吉造」

26 書簡下書(断簡)

① 平尾鑑太郎続書

年未詳

封筒有

1

27 挨拶状下書

平尾鑑太郎↓永島懐夾

年未詳

折紙

1

28 四方寅雄履歴書

予備役海軍一等主計兵曹四方寅雄

年未詳

用紙(6丁)

1

17 縁組

1 縁組にて御内意伺いにつき書状

平尾善大夫(判)↓篠井源五右衛門・河崎市丞・堀清左衛門・千秋半丞・富田長左衛門

(文久元年)西4月8日

切続紙

1

2 嫁入道具持参目録覚

嫁入道具受取目録覚

平尾善大夫↓石坂小太郎

(文久元年)西9月23日

封筒有

1

3 嫁入道具受取目録覚

4 お竹嫁入入用之覚

5 お竹拵之覚

6 平尾善太続柄書上

7 石坂竹続柄書上

8 膳直しにつき石坂氏献立

9 縁組につき贈品目録覚

10 奥田頼太郎続書

奥田頼太郎↓平尾鑑太郎

11 平尾鑑太郎・永島叶婚姻一件

① 平尾鑑太郎続書

② 道具目録

平尾鑑太郎↓永島懐夾

(明治25年4月)

明治22年3月

明治25年4月

明治25年4月

明治25年4月

折紙

包封有

包封有

包封有

2

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

番号 標 題 年 月 日 形態 点数

12 平尾鑑太郎・永島叶婚姻一件 明治25年4月吉日 包封有 2

①永島叶続書 永島懐爽↓平尾鑑太郎 明治25年4月吉日 切続紙 2

②贈品目録 明治25年4月 折紙 3

13 戸水信義娘婚姻一件 明治31年10月16日 封筒有 3

①娘結婚により続書送付の件など 明治31年10月16日 切続紙 3

書簡 戸水信義↓平尾鑑太郎 明治31年10月 切続紙 3

②戸水五月続書 明治31年10月 切続紙 3

③続書記載の親類素性留書 明治31年10月 切紙 3

18 葬儀

1 貞鏡院葬式行列并諸入用等書上 文化2丑4月18日 長帳(4丁) 1

2 観浄院様御病死一件并御曆代等法 文化14年〜天保4年 合綴(27丁) 1

3 浄鏡院病死諸事留并葬式二付寺江 文政3〜4年 合綴(11丁) 1

御参詣帳 天保5年甲午正月2日ほか 合綴(12丁) 1

4 九内不幸二付贈具覚等綴 天保5年甲午正月2日ほか 合綴(12丁) 1

・為御悔御出帳

・新坂下為御悔御出帳

・九内不幸二付贈具覚

5 賢良院殿病死一件等綴 (天保5年) 合綴(11丁) 1

・賢良院殿病死一件

・寺江御参詣并野迄御参詣帳

・中陰法事諸事留

6 恵良院殿御葬式并御法事等都而控 弘化2年5月18日ほか 長帳(17丁) 1

等綴 弘化2年乙巳5月18日 長帳(7丁)

①恵良院殿御葬式并御法事等都而控 弘化2年乙巳5月18日 長帳(7丁)

②為御悔御通并御音物之覚 巳5月20日 長帳(3丁)

③寺江御参詣帳 20日 長帳(6丁)

④為御悔御出帳 明治2巳年2月14日 長帳(24丁)

7 真順院殿諸事留 (明治2年) 長帳(2丁)

8 真順院殿葬式之節御参詣帳 大正4年1月20日 長帳(3丁)

9 六郎病死一件覚 大正4年1月21日 用紙 1

10 平尾六郎死亡診断書 大正4年1月21日 用紙 1

石川県金沢市大工町四拾参番地医師岡田剛吉(印) 大正4年12月 長帳(4丁) 1

11 御備物覚 10月15日 長帳(3丁) 1

12 自宅御会葬人覚帳 年未詳 長帳(3丁) 1

13 十一屋御会葬人覚帳 年未詳 長帳(10丁) 1

14 法事費用等書上 年未詳 長帳(2丁) 1

15 御会葬義名帳 年未詳 長帳(3丁) 1

16 買物帳 年未詳 長帳(3丁) 1

17 御悔帳 年未詳 長帳(4丁) 1

18 御悔帳 年未詳 長帳(4丁) 1

19 藩政・一般

1 東照宮御朱印之写 年未詳 続紙 2

①曹洞永平寺諸法度 年未詳 切紙 1

②総持寺諸法度 年未詳 袋綴(5丁) 1

2 脇田如鉄書状写 文化元年7月 一枚 52×41 1

3 前田家藩主略歴 富田景周

4	御懸物数しらへ扣	文化元年	小帳(8丁)	1
5	大梁院様御葬式御行列留帳	文化7年正月	小帳(35丁)	1
6	京江戸等御手役者交名帳	文化8年	小帳(5丁)	1
7	御軍役高覚書	年未詳	袋綴(24丁) 袋有	1
8	正月能番組并拝観者書上	年未詳	切統紙	1
9	盆正月作り物各町書上	年未詳	一紙	1
10	日課経咒並式	明治11年12月9日出版御届、 同12年6月25日翻刻御届	折本	1
11	曹洞宗大教院蔵版、編輯並出版人少数正辻頭高、翻刻人大講義曾根莫道 仏祖般若三経 洗心会	明治24年3月	冊子(印刷11丁)	1

II 親類 石坂家

21 家・由緒

- 1 江戸表にて友右衛門家督被仰付一卷等
 ① 江戸自分御供につき諸事しらへ銭
 等払発足前分書留
 安永5年4月
 13丁
 横帳 袋有
- ② 江戸表相詰候節用意もの詰中入用
 土産物其他諸払帳
 安永5年申6月〜翌年酉4月
 5丁
- ③ 友右衛門家督相続被仰渡候一卷
 申(安永5年)霜月6日
 22丁
- ④ 家督案内紙面抜書
 安永5年申霜月
 12丁
- 2 石坂家縁組等諸事留
 享和2年〜文化6年
 横帳(13丁)
- 3 義十郎御屋鋪召出一件留
 文政3年庚辰正月
 横帳(14丁)
 同辰7月朔日
 袋有
- 4 お栄初産式度目しらへ帳
 文政3〜11年
 横帳(13丁)
- ・ 文政3辰11月4日安五郎出生
- ・ 文政5午3月24日おかつ出生
- ・ 文政11子9月26日鍵三郎出生
- ・ 同4年卯11月7日同人嫡子猪之助病死
- ・ 同6年巳4月同女子出生

番号	標題	年月日	形態	点数
5	安五郎養子一件	天保4年	横帳 袋有	2
6	①安五郎養子一件留帳 ②安五郎養子入用之覚	(天保4年)癸巳2月6日	切続紙 11丁 14丁	1
7	季房命名書 高井雀嶺長真(印)↓石阪雅丈	年未詳	切紙	1
22 勤仕				
1	魚津御巡見御行列附	明和9年7月4日	小帳(10丁)	1
2	御触帳之内書抜	天明2年↘文政2年	小帳(23丁)	1
3	石坂五郎右衛門加増一件 ①御用につき呼出状	(天明7年)10月17日	切紙(切封)	2
4	石野様へお順様嫁入・懐妊等諸事 留帳	寛政元年↘文化5年	小帳(10丁)	1
5	②五郎右衛門拾石御加恩一卷入用等 石坂五郎右衛門加増一件	天明7年未10月18日	横帳(18丁)	1
6	①御用につき呼出状 永見丈左衛門↓石坂五郎右衛門	(寛政8年)2月26日	切紙(切封)	2
6	②榎三郎様本知二相成五郎右衛門拾 石御加増留帳 小松御留守心覚帳 房雄	寛政8年辰2月27日 文化元↘2年	横帳(14丁) 横帳(16丁)	1

7	役義断につき指扣被仰付候一件 ①仰渡につき呼出状	(文化14年)2月26日	袋・包紙有 切紙(切封)	6
8	寺社支配分限帳	文政4年巳12月	小帳(22丁)	1
9	加賀藩役懸帳	天保・弘化期	畳物	1
10	魚津詰諸入用留 房資	弘化4年↘嘉永2年	小帳(14丁)	1
11	御用所出状等文通留帳 房義	元治元年2月	小帳(6丁)	1
12	寺社関係書状等写	年未詳	切紙	1
23 家計・土地				
1	家売券状 平野彦左衛門(印)↓富田次太夫内石坂源左衛門	寛延2年巳8月9日	切紙	1
2	石坂家御小人町引越一件 ①家代御手付銀請取書 西谷与三兵衛(印)↓石坂五郎右衛門	午(天明6年)12月晦日	袋有 切紙	7
	②家買受中勘銀請取書 飾師助二郎(判)↓石坂五郎右衛門	午(天明6年)12月晦日	切続紙	

③買家祝につき書状 (天明7年)正月27日 切紙

永見丈左衛門↓石坂五郎右衛門

④小人町家へ引移之節小出錢払帳 天明7年末正月 横帳(4丁)

永見丈左衛門↓石坂五郎右衛門

⑤今般居宅替二付夫々しらへ方留帳 天明7年末正月 横帳(25丁)

石坂五郎右衛門

⑥家売券状之事 天明7年正月 切紙

西谷与三兵衛(印)↓石坂五郎右衛門

⑦家買券状之事 天明7年正月 切紙

板坂新九郎(印)↓石坂五郎右衛門

3 石坂源左衛門宅地子入関係等

①土蔵新出来普請入用留帳 寛政12年申正月〜7月 長帳(7丁)

②町方才許加人願下書 申(寛政12年) 切紙

西谷与三兵衛↓普請会所

③町方才許加人御聞届之趣請書下書 (寛政12年)3月4日 切紙

↓御普請会所

④売券状之事 寛政12年3月16日 切紙

西谷与三左衛門(判)↓石坂源左衛門

⑤御小人町地子地二被仰渡候しらへ 寛政12年申3月 長帳(6丁)

⑥組付地子歩数書上 寛政12年 切紙

西谷与三左衛門

⑦間数等喰違につき書状 正月晦日 切紙(切封)

武藤和右衛門↓石源左衛門

⑧役所向聞届の儀につき書状 3月4日 切続紙(切封)

武藤和右衛門↓石源左衛門

⑨例之一件埒明樽肴到来につき礼状 3月13日 切続紙(切封)

原喜兵衛↓(石坂)源左衛門

⑩御口上之趣委曲承知につき書状 3月20日 切紙(切封)

武藤和右衛門↓(石坂)源左衛門

⑪石坂依頼の件につき書状 8月晦日 切続紙

武和右衛門↓丈左衛門

4 石坂居屋敷并地面しらへ絵図等 袋有

①石坂居屋敷間数有成并土蔵等新出 文化9申年 一枚

来絵図

②藤井氏地境の儀につき書状 2月2日 切紙(切封)

西谷与三兵衛↓石坂五郎右衛門

③居屋敷間数絵図 年未詳 一枚

石坂

④居屋敷間数絵図 年未詳 一枚

⑤紺屋買入地間数絵図 年未詳 一枚

5 家雑記 巳7月 袋綴(20丁)

6 普請方惣入用入払帳 戌4月 横帳(5丁)

7 類焼前居家之絵図方角附等入袋 年未詳 包紙

8 払物覚 明治14〜15年 横帳(6丁)

伊志佐加(石坂)

24 交際・縁組

1 おちよ婚姻一件 寛政7年卯3月25日 折紙 2

①おちよ婚儀につき書上 寛政7年卯3月 横帳(4丁)

②おちよ一巻左源太願書付記 寛政7年卯3月 横帳(4丁)

2 小池八左衛門娘縁組一件 (享和2年)12月26日 切紙 2

①娘縁組申渡につき礼状 小池八左衛門↓磯部屋新兵衛 切紙

小池八左衛門↓磯部屋新兵衛

②小池八左衛門娘続柄 年未詳 切続紙、包封有

番号	標 題	年 月 日	形態	点数
3	石坂久作婚姻一件			
①	嫁入持参目録(筆筒)	(享和3年)正月21日	袋有 切紙	8
	小池八左衛門			
②	嫁入持参目録(扶箱等)	(享和3年)正月21日	切紙	
	小池八左衛門			
③	嫁入持参目録(葛籠等)	(享和3年)正月21日	切紙	
	小池八左衛門			
④	嫁入持参目録(守脇指等)	(享和3年)正月21日	切続紙	
	小池八左衛門			
⑤	嫁入持参目録	(享和3年)正月21日	切続紙	
	小池八左衛門			
⑥	久作婚儀諸事扣(小池氏紙面等入)	享和3年亥正月26日	横帳(17丁)	
⑦	石坂久作続柄	(享和3年正月)	折紙	
⑧	祝儀もの帳	(享和3年)	長帳(6丁)	
4	お数縁組一件	(天保11年)	横帳 袋有	3
①	お数縁組一件帳		14丁	
	石坂友右衛門			
②	お数拵之覚		9丁	
③	お数嫁入入用之覚		19丁	
5	嫁入道具着物品付	天保12年丑11月改	長帳(12丁)	1
6	中嶋左源太家求罷越候一件等留		袋有	5
①	中嶋八三郎四人扶持皆地米請取高	安永7年戌正月〜寛政9年7月	横帳(14丁)	
	扣			
	石坂友右衛門			
②	中嶋八三郎御扶持米自分入払勘定	安永7年戌正月〜寛政9年7月	横帳(18丁)	
	帳			
	石坂五郎右衛門			
③	中嶋左源太家相求候一卷之留帳	寛政9年巳7月26日	横帳(4丁)	
④	普請払方帳	寛政9年閏7月	横帳(6丁)	
⑤	夫銀等しらへ	年未詳	切続紙	
7	松崎氏養子一件等			
①	借用銀返済書	申(文化9年)12月6日	切紙	
	富田屋長兵衛↓松崎故順次郎			
②	松崎方払等しらへ帳	文化9年申12月	横帳(8丁)	
③	松崎殿養子願の件了承につき書状	8月19日	切紙(切封)	
	戸水喜四郎↓石茂右衛門			
④	松崎故順次郎末期養子につき願書	8月	切続紙	
	中嶋左源太・石坂茂右衛門↓戸水喜四郎			
⑤	文丁銀請取書	10月3日	切紙	
	松崎順治郎(印)↓富田屋長兵衛			
8	中嶋氏入払しらへ等			
①	申八月借用銀等返済方仕方立相改	申(文化9年)8月	横帳(7丁)	
	しらへ			
②	年中入払年賦等暮らし方図しらへ	文化9年申10月	横帳(6丁)	
③	文化十年酉正月と同七月迄収納代	文化10年酉正月〜7月	横帳(5丁)	
	等を以取続方しらへ			
	中嶋			
④	米高書上	西(文化10年)6月26日	切続紙	
	越前屋庄助↓中嶋左源太			
⑤	文丁銀・頼母子懸銀等請取書	西(文化10年)11月	切紙	
	中嶋左源太			
⑥	米切手御渡依頼状	7月7日	切紙	
	中嶋左源太↓(石坂茂右衛門)			

25 葬儀

- | | |
|---|--|
| <p>1 智詮院様御死去一卷</p> <p>① 智詮院様御病死一卷并御入用控帳
寛政4年子2月23日
横帳(22丁)</p> <p>② 備物送付につき書状
寛政4年2月27日
切紙(切封)</p> <p>永見丈左衛門↓石坂五郎右衛門</p> <p>③ 葬儀人足代請求并受取書
寛政4年2月27日
切続紙</p> <p>花屋嘉助↓石坂五郎右衛門</p> <p>④ 焼香次第
寛政4年
切続紙</p> <p>⑤ 智詮院葬式寺江御参詣帳
寛政4年
長帳(4丁)</p> <p>⑥ 到来物留帳
寛政4年
長帳(4丁)</p> <p>2 貞性院病死入用一卷留帳
享和元年酉9月
横帳(36丁)</p> <p>3 心照院病死一件
袋有</p> <p>① 祈祷料請取につき礼状
文化7年卯月21日
切紙(切封)</p> <p>妙玄寺↓石坂源左衛門</p> <p>② 心照院病死一卷入用等扣帳
文化7年午4月22日
横帳(20丁)</p> <p>③ 忌御免につき出勤申付状
文化7年4月28日
切紙(切封)</p> <p>前波八右衛門↓石坂茂右衛門</p> <p>④ 心照院回向につき茶湯料受納状
文化7年5月25日
切続紙(切封)</p> <p>本光寺↓石坂源左衛門</p> <p>⑤ 心照院一周忌につき所々付届法事
文化8年未4月
横帳(7丁)</p> <p>入用共留帳</p> <p>4 慶浄院殿病死之節葬式中陰等一件</p> <p>① 親父看病聞届につき書状
文化14年6月7日
切紙(切封)</p> <p>永見又助↓石坂茂右衛門</p> <p>② 病中のしらへ
丑(文化14年)6月26日
横帳(7丁)</p> <p>③ 慶浄院殿病死之節并中陰等しらへ
文化14年丑6月26日
横帳(23丁)</p> | <p>6</p> <p>④ 御自分様忌御免につき出勤申付状
文化14年7月9日
切紙(切封)</p> <p>永見又助↓石坂茂右衛門</p> <p>⑤ 寺江御参詣帳
文化14年
長帳(4丁)</p> <p>5 誠諦院殿并慶宗院様病死一件
横帳
袋有</p> <p>① 静病死一件
安政2年卯12月
23丁</p> <p>石坂友右衛門</p> <p>② 慶宗院様御病死一件
安政5年午9月10日
22丁</p> <p>6 誠諦院葬式出費書上
安政2年12月6日
切続紙</p> <p>7 石坂友右衛門病氣見舞一件
切紙</p> <p>① 病状御尋につき書状
文化元年7月15日
横帳(41丁)</p> <p>② 病氣見舞目録(串海鼠・干鰓鮓)
文化元年
袋有</p> <p>8 誠忠院殿御病死につき一件惣而調理帳
文化元年7月15日
横帳(41丁)</p> <p>9 石坂友右衛門病死につき書状
文化元年7月16日
切紙(切封)</p> <p>永見嘉左衛門↓石坂小太郎</p> <p>10 忌中様子御尋につき書状
文化元年7月16日
切続紙
包封有</p> <p>11 石坂友右衛門病死につき香奠一件
文化元年7月18日
切紙</p> <p>① 香奠送状
文化元年7月18日
切紙</p> <p>② 香奠目録(金二百疋・野菜)
文化元年7月18日
切紙(包封有)</p> <p>12 香奠目録(左近より蒸籠・生花)
文化元年7月
切紙</p> <p>13 香奠目録(甚之丞・右兵衛より金二百疋・野菜)
文化元年7月
切紙</p> <p>14 葬式之節寺江御参詣帳
文化元年7月
長帳(3丁)</p> <p>15 御悔として御出帳
文化元年7月
長帳(5丁)</p> <p>16 返礼先書上等綴
文化元年8~9月
こより綴(5丁)</p> |
|---|--|

番号	標 題	年 月 日	形態	点数	2 類従方	明和元年甲申7月	小本(木版140丁)
17	葬儀諸人用代受取書綴						
①	回向料等受納書 安立寺役僧(院印)↓石坂小太郎	(文久元年) 8月18日	切紙	1	吉益為則撰、平安書肆 田中市兵衛・山本長兵衛・林権兵衛・林宗兵衛		
②	回向料等受納書 安立寺(印)↓石坂小太郎	(文久元年) 9月3日	切紙		綿甲覚書等書上	午8月	切紙
③	棺代等受取書 笠屋久三郎(判)↓石坂	酉(文久元年) 7月23日	切紙		①綿穀・綿甲調合書 戸田有勝(印)	午11月	切紙
④	精進料理食材代請取書 山小屋↓横井	(文久元年) 7月19日	切続紙		②三神靈妙香調合書 戸田有勝(印)	午11月	切続紙
⑤	精進料理食材代書上 山小	(文久元年) 7月27日	切続紙		③赤龍丹調合秘伝書	年未詳	切紙
⑥	豆腐代請取書 田井屋小兵衛↓石坂台所	酉(文久元年) 7月25日	切紙		暴泻病療法等につき公儀より書付 ↓大目付 (奥書) 9月	8月	切続紙
⑦	装束代請取書 吉キ↓石坂	(文久元年) 7月23日	切続紙		①犬毒解毒ノ方につき書状 浅井道寿↓松崎順次郎	臘月9日	切続紙、包封有
⑧	人足代書上 安立寺↓石坂小太郎	(文久元年) 7月27日	切紙		②犬毒解毒ノ方 富城医官浅井某	年未詳	横帳(4丁)
18	忌御免につき出勤申付状 永見嘉左衛門↓石坂小太郎	(文久元年) 8月5日	切紙(切封)	1	7 香竄耐服用書上 渡辺	年未詳	切紙
19	誠忠院様御開名御言霊彫刻代等書上 印「石屋仁兵衛」↓坪光御用	戊(文久2年) 3月28日	切紙	1	8 柴胡等薬調合につき書状 和田法眼・執七↓石坂	年未詳	切続紙
20	忌御免につき出勤申付状 永見嘉左衛門↓石坂小太郎	5月28日	切紙(切封)	1	9 不浄除札・雷除札 ①不浄除 ②雷除 ③雷除	年未詳	切紙 包封有
26	医薬				10 ホフマン・ラウダ・薄荷油服用法書上	年未詳	切紙
1	薬調合等覚	宝暦12年ほか	仮綴(断簡2丁)	1			

11 水薬用法書上
12 看護婦講習規則并志願書雛形

年未詳
年未詳

切統紙
罫紙綴(4丁)

1 1

III 葵園会

31 七回忌

1 十二十七回忌書類綴

① 十二十七周忌書類付紙

② 出納簿

③ 碑銘費用等書上

④ 諸事入費記

⑤ 碑銘并法会出金名簿

⑥ 参詣人名簿

⑦ 参詣人名簿

⑧ 参詣人名簿

⑨ 蒸籠提供者并参詣人名簿

⑩ 法会諸役僧侶書上

⑪ 参詣人名簿

⑫ 戒名書上

⑬ 参詣料理代受取書

大乘寺副寺(印) ↓ 世話御中
⑭ 花代受取書

印「加州金沢犀川橋場花屋徳兵衛」 ↓ 上様

⑮ 小ふた代請取書

大りや市郎左衛門 ↓ 山岡

⑯ 御所落雁代受取書

石川屋店(加州金沢堅町御菓子所石川屋弥兵衛) ↓ 上様

⑰ 法会出費書上

寺子屋弥平 ↓ 竹村大君御入寺

⑱ 品物代金受取書

堀内某 ↓ 斎藤

合綴

切紙

長帳(3丁)

長帳(2丁)

長帳(6丁)

長帳(3丁)

長帳(4丁)

長帳(3丁)

長帳(4丁)

長帳(9丁)

折紙

折紙

折紙

切紙

切紙

切紙

切紙

切統紙

切統紙

番号 標 題 年月日 形態 点数

- ⑱ 人足代書上
野村二平↓山村
(明治11年) 切紙
- ⑳ 品物代書上
印「材木商金沢新野町金戸権次郎」↓野村仁左衛門
寅(明治11年)12月 切紙
- ㉑ 人足代等書上
(明治11年)11月8日 切紙
- ㉒ 手桶代等書上
(明治11年)12月 折紙
上村
- ㉓ 寿煎餅代請取書
(明治11年)12月7日 切続紙
石川伊三郎(印「屋号」石川伊三郎)↓上様
- ㉔ 品物代金受取書
寅(明治11年)12月10日 罫紙
田井大五郎↓寺窪
- ㉕ 正喜撰代請取書
(明治11年)12月7日 切紙
(屋号「印「屋号」野口嘉七)↓寺窪
- ㉖ 菓子代受取書
(明治11年)11月10日 切紙
石川店(印「屋号」石川伊三郎)↓上様
- ㉗ 花代請取書
寅(明治11年)12月11日 切続紙
花徳兵衛(印「加州金沢犀川橋場花屋徳兵衛)↓寺窪
- ㉘ 仕立紙代等請取書
(明治11年)12月29日 切紙
岩内義平(判)↓
- ㉙ 代金差引覚
(明治11年)12月10日 切続紙
福岡久次(印)↓世話懸
- ㉚ 短冊等代受取書
寅(明治11年)12月7日 切紙
石浦屋宮川伊助(印「加州金沢新立町三丁目石浦屋伊助)↓若様
- ㉛ 法事料・賄料請取書
(明治11年)12月5日 罫紙
大乘寺副寺(印)↓法事世話懸
- ㉜ 碑銘彫刻手問料等請取書
寅(明治11年)12月4日 続紙
石室弥兵衛(印)↓斎藤等

③③ 石見分代請取書
野村二平↓上様
寅(明治11年)11月9日 切紙

③④ 出入金名簿
(明治11年) 長帳(14丁)

③⑤ 別冊押印により回覧状
(明治11年)5月 罫紙

③⑥ 出入金名簿
(明治11年) 長帳(2丁)

③⑦ 出入金名簿
(明治11年) 切紙

③⑧ 出入金名簿
(明治11年) 切紙

③⑨ 出入金名簿
(明治11年) 折紙

④① 出入金名簿
(明治11年)12月10日 切紙

④② 納入金書上
(明治11年)12月 折紙

④③ 出金名簿
(明治11年) 折紙

④④ 出入金名簿
(明治11年) 罫紙

④⑤ 出入金名簿
(明治11年) 切紙

④⑥ 石碑建立寄進につき依頼状
明治11年7月12日 切紙

④⑦ 出入金名簿
(明治11年) 折紙
園田豊勝(印)↓竹村忠太

④⑧ 出入金名簿
(明治11年)12月1日 折紙

④⑨ 出入金名簿
(明治11年)12月6日 切紙
竹村忠太

⑤① 出入金名簿
明治11年11月30日 切紙
戸水(印)↓福岡

⑤② 出入金名簿
(明治11年)12月10日 切紙
藤江直之(印)↓有志輩

⑤③ 御法祭執行につき寄進状
(明治11年)12月5日 切紙
戸水↓福岡

⑤④ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
古川師次

⑤⑤ 御法祭執行につき寄進状
(明治11年)12月5日 切紙
山口勝忠

⑤⑥ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
山口勝忠

⑤⑦ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
山口勝忠

⑤⑧ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
山口勝忠

⑤⑨ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
山口勝忠

⑤⑩ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
山口勝忠

⑤⑪ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
山口勝忠

⑤⑫ 出入金名簿
(明治11年)12月 切紙
山口勝忠

- 2 志金高井参詣記帳 明治11年11月8日 袋綴(20丁) 1
- 3 十二十七回忌書類袋 明治11年11月 包袋 1

32 一三回忌

- 1 追悼法会にて本多政以より御菓子料頂戴一件 明治17年 9月3日 切統紙、封筒有 1
- ①本多政以より御菓子料送付につき 明治17年 9月3日 切統紙、封筒有 書簡
- 太田猶良↓大橋豊敬
- ②御菓子料袋(水引付) (明治17年) 包紙
- 2 十三回忌法会十二土碑石摺物寄送 明治17年 9月4日 袋綴(6丁) 1
- 之人名留
- 3 十三回忌法会寄附金等留 明治17年 9月4日 袋綴(5丁) 1
- 4 十三回忌諸入用代請取書綴 明治17年 9月9日 切紙 1
- ①入金書上 (明治) 17年 9月9日 切紙
- ②蒸籠代等請取書 申(明治17年) 9月11日 切紙
- 辻仁↓上様
- ③碑石手間料等請取書 申(明治17年) 9月16日 一紙
- 石室弥兵衛(印判)↓斎藤
- ④花代請取書 申(明治17年) 9月1日 切紙
- 花徳(印「加州金沢川橋場花屋徳兵衛」)↓斎藤恒固
- ⑤書画御器具借上料請取書 (明治) 17年 9月6日 切紙
- 舟喜幾久郎↓大橋豊敬
- ⑥石摺用墨代請取書 (明治) 17年 9月6日 切統紙
- 舟喜幾久郎↓大橋豊敬
- ⑦紙代請取書 (明治17年) 8月27日 切統紙
- 吉川嘉石衛門(印「石川県加賀国金沢区片町拾二番地紙商吉川嘉石衛門」)↓舟木

- ⑧五厘錦代受取書 (明治17年) 9月5日 切紙

- ⑨広告料領取証 村中直兵衛(判)↓土田 明治17年 8月16日 用紙

- ⑩藁縄代書上 北溟社(印)↓斎藤恒固 申(明治17年) 9月 切紙

- (継紙)藁縄代等受取書 印「材木商金沢新堅町金戸権次郎」↓上田 (明治17年) 9月11日 切紙

- ⑪石摺代等請取書 上田一三三 9月9日 切統紙
- 岩内義平↓大橋

- 5 十二十三回忌計算帳 明治17年 9月 長帳(3丁) 1

- 6 御参詣人等帳 明治17年 9月 長帳(2丁) 1

- 7 十二十三回忌書類袋 明治17年 10月 包袋 1

- 8 法会式概略新聞掲載につき草案 添削願 (明治17年) 10月16日 切統紙 1
- 竹村親愛↓(大橋) 豊敬

- 9 墓費用十二割老人代等書上 (明治17年) 切紙 1

33 一七回忌

- 1 十二土墓地及び法会の儀につき 書簡綴 明治17年 切紙 1

- ①十二烈士墓地の儀等につき書簡 戸水信義↓(斎藤) 恒固御座所 (明治) 21年 6月9日 切紙

- ②十二土墓地の儀につき書簡 福岡久祐↓斎藤恒固 (明治) 21年 6月14日 切統紙、封筒有

- ③十二土墓等買上の儀につき相談 福岡久祐↓斎藤恒固 (明治) 21年 9月4日 葉書

番号	標 題	年 月 日	形態	点数
④	鉄柵及び法会の儀につき相談 福岡久祐・戸水信義↓齋藤恒固・竹村親愛	(明治) 21年10月8日	葉書	4
⑤	忌日大乘寺茶湯開催の儀につき 書簡 齋藤恒固・竹村親愛・大橋豊敬↓戸水信義・福岡久祐	(明治21年) 10月13日	切統紙	5
2	大乘寺法会入用代請取書等綴		こより綴(11枚)	6
①	酒・菓子代等書上	(明治21年)	折紙	7
②	縄代金受取書 印「荒物廣瀬茂吉郎」↓竹村	明治21年12月5日	切統紙	8
③	紙・蠟代金請取書 森亮造(印「紙商本多町川御亭森亮造」)↓竹村	(明治21年) 11月5日	切統紙	9
④	花代請取書 花徳↓竹村	子(明治21年) 11月5日	切統紙	10
⑤	墨代受取書 松村金七(印「文海堂金沢片町筆墨硯松村金七」)↓上様	明治21年11月1日	切統紙	11
⑥	紙・短冊代等受取書 吉川嘉右衛門(印「石川県加賀国金沢区片町十二番地紙商吉川嘉右衛門」)↓竹村	(明治21年) 11月1日	切統紙	12
⑦	画箋・短冊代等受取書 吉川嘉右衛門(印「石川県加賀国金沢区片町十二番地紙商吉川嘉右衛門」)↓上様	(明治21年) 10月14日	切統紙	13
⑧	法事料領収証 大乘寺副寺(印)↓有志各々	(明治21年) 11月3日	切紙	14
⑨	生花売予算等書上	(明治21年)	切紙	①大乘寺料理代等書上
⑩	揮毫席予算書上	(明治21年)	切紙	②焼万頭代等書上
⑪	法事料書上	(明治) 21年7月14日	切紙	③呉座・料理代等書上
3	十二士十七回忌花代御送につき 書簡 佐川久連↓竹村親愛	(明治21年) 10月25日	切紙 封筒有	④石花立代受取書 石室弥兵衛(印)↓斎藤
				⑤生菓子・蒸籠代等請取書 辻仁(印「金沢百姓町辻仁右衛門」)↓上様
				⑥十二士十七回忌法会広告案 本多町有志総代斎藤恒固
				⑦十七回忌腰折進上につき書簡 円井庄造↓大橋豊敬
				⑧軸物大乘寺へ持参につき書簡 松平康保↓大橋豊敬
				⑨菓子料送付につき書簡 太田猶良↓大橋豊敬
				⑩十二士十七回忌追悼会御参詣帳 本多町有志輩
				⑪十二士十七回忌法会寄附金等留
				⑫十二士十七回忌入費調理帳
				⑬十二士十七回忌追悼会一件袋 有志輩
				⑭十二士十七回忌祭文 松平康保
				⑮十二義士十七回忌漢詩 本多政由
				⑯大乘寺法会入用諸代金請取書等 (明治21年)
				⑰焼万頭代等書上 (明治21年)
				⑱呉座・料理代等書上 (明治21年)
				⑳石花立代受取書 子(明治21年) 12月6日
				㉑生菓子・蒸籠代等請取書 子(明治21年) 11月7日

⑥上中下客分品物代領取証 明治21年11月7日 切紙

大乘寺副寺(印) ↓御有志

15 十二士七回忌追悼会一件書

(挿花・揮毫)

①法会生花帳 (明治21年) 袋綴(4丁)

②生花之事書上 (明治21年) 長帳(2丁)

③挿花配置順序書上 (明治21年) 折紙

④書画席書上 (明治21年) 折紙

⑤揮毫席備品書上 (明治21年) 長帳(2丁)

⑥人足之事書上 (明治21年) 折紙

⑦十二士七回忌追悼会入費調書 明治22年5月29日 長帳(3丁)

齊藤恒・山岡貞一・土田親知・竹村親愛

16 和歌 (明治21年) 短冊

景瑞

17 和歌 (明治21年) 短冊

福氏

18 俳句 (明治21年) 切紙

野村栢月

19 十二士七回忌追悼会発起書 (明治21年) 罫紙

20 御当家御参詣御人数之調帳 (明治21年) 長帳(2丁)

21 立花代等書上 (明治21年) 切統紙

22 法会収支書上 (明治21年) こより綴(2丁)

34 二五回忌

1 十二士廿五回忌につき案内状等綴

①清水直信・島田十方経歴書 (明治29年) 切紙

②十二士戒名等書上 (明治29年) 折紙

③金銭書上 (明治29年) 折紙

④法事につき諸事留 (明治29年) 切統紙

⑤差定・焼香順・祭文読上時節之事 (明治29年) 切紙

⑥読経時刻等書上 (明治29年) 切紙

⑦たばこ粉盆等入用品書上 (明治29年) 切紙

⑧名刺 (明治29年) 用紙

市嶋美敬

⑨金銭差引書上(後欠) (明治29年) 切紙(断簡)

⑩包封 (明治29年) 包封

印(屋号)金沢市新堅町紙小間物商中西順太郎

⑪郵便切手代等取替分書上 (明治29年) 切紙

⑫法事茶湯料等につき書簡 (明治29年) 切統紙

⑬十二義士二十五回忌法会案内状案 (明治29年) 8月4日 切紙

葵園会

⑭十二義士二十五回忌追悼法会案内 (明治29年) 8月 切紙

状案

金沢市下本多町四番丁二番地葵園会員惣代大橋豊敬等

⑮案内状文案下書 (明治29年) 8月 罫紙

下本多町四番丁二番地葵園会員惣代大橋豊敬等

⑯人名書上 (明治29年) 切紙

⑰人名書上 (明治29年) 切紙

⑱人名書上 (明治29年) 切統紙

⑲有志者宛廿五年忌法会案内状案 (明治29年) 6月 切紙

葵園会幹事

⑳御当家分廿五年忌法会案内状案 (明治29年) 6月 切統紙

葵園会幹事

㉑十二義士廿五年忌法会案内状案 (明治29年) 6月 切統紙

葵園会幹事 ↓(本多) 衛政養

3 十二義士三十三回忌追悼法会

案内状

① 矢木新治宛案内状 明治37年8月21日 切紙(印刷)、封筒有

葵園会↓矢木新治

② 湯口宛案内状 明治37年8月21日 切紙(印刷)、封筒有

葵園会↓湯口

③ 広田宛案内状 明治37年8月21日 切統紙(印刷)

葵園会↓広田

④ 上林敬次郎宛案内状 明治37年8月28日 葉書

葵園会↓上林敬次郎

4 十二義士三十三回忌追悼法会案内

につき返書

① 上田藤太郎返書 明治37年8月23日 切統紙、封筒有

上田藤太郎↓葵園会

② 富田勝磨返書 明治37年8月26日 切統紙、封筒有

富田勝磨↓葵園会

③ 干潟孝太郎返書 明治37年8月26日 切統紙

干潟孝太郎↓太田大兄

④ 浅井郁太郎返書 明治37年8月26日 切統紙、封筒有

浅井郁太郎↓葵園会

⑤ 渡瀬政礼返書 明治37年8月29日 切統紙、封筒有

渡瀬政礼↓葵園会

⑥ 高島究孝返書 明治37年8月29日 切統紙、封筒有

高島究孝↓葵園会

⑦ 堀俊明返書 明治37年8月29日 切統紙、封筒有

堀俊明↓葵園会

⑧ 吉見五兵衛返書 明治37年8月30日 切紙、封筒有

吉見五兵衛↓葵園会

⑨ 今村勇次郎返書 明治37年8月30日 切統紙

今村勇次郎↓葵園会

⑩ 小川清太返書 明治37年8月30日 切紙、封筒有

小川清太↓葵園会

⑪ 箕浦恭五郎返書 明治37年8月30日 葉書

箕浦恭五郎↓葵園会

⑫ 西永公平返書 明治37年8月30日 葉書

西永公平↓葵園会

⑬ 西村俊造返書 明治37年8月30日 葉書

西村俊造↓葵園会

⑭ 大森孝次郎返書 明治37年8月30日 切統紙、封筒有

大森孝次郎↓葵園会

⑮ 奥田頼太郎返書 明治37年8月30日 葉書

奥田頼太郎↓葵園会

⑯ 山森隆返書 明治37年8月30日 切統紙、封筒有

山森隆↓葵園会

⑰ 芝木小三郎返書 明治37年8月30日 切紙、封筒有

芝木小三郎↓葵園会

⑱ 宮野直通返書 明治37年8月30日 切統紙、封筒有

宮野直通↓葵園会

⑲ 志筑光一郎返書 明治37年8月30日 切紙、封筒有

志筑光一郎↓葵園会

⑳ 豊田執事返書 明治37年8月31日 葉書

豊田執事↓葵園会

㉑ 武村弥吉返書 明治37年8月31日 葉書

武村弥吉↓葵園会

㉒ 松井敬勝返書 明治37年8月31日 切紙、封筒有

松井敬勝↓葵園会

番号	標 題	年 月 日	形態	点数	備考	年 月 日	形態	点数
②③	奥村栄滋返書 奥村栄滋↓本多君御内葵園会	(明治37年) 8月31日	切続紙、封筒有	5	南部辰返書 南部少将↓葵園会	明治37年9月18日	切続紙、封筒有	1
②④	今枝直規返書 今枝直規↓葵園会	(明治37年) 8月31日	葉書	5	義士三十三回忌招待欠席につき 書簡 (諏訪)卯三郎↓葵園会	(明治37年) 9月23日	切続紙、封筒有	1
②⑤	稲垣義方返書 稲垣義方↓葵園会	(明治37年) 8月31日	葉書	6	十二義士等追悼会終了につき挨拶 状下書 葵園会	(明治37年) 9月	切続紙	1
②⑥	吉田雄一郎返書 吉田雄一郎↓葵園会	(明治37年8月) 31日	切紙、封筒有	7	十二義士三十三回忌法会挙行諸事 留 葵園会	明治37年	罫紙綴(27丁)	1
②⑦	柳原至返書 柳原至↓葵園会	(明治37年) 8月31日	切続紙、封筒有	8	十二義士三十三回忌追吊会寄附金 簿 葵園会	(明治37年)	袋綴(9丁)	1
②⑧	中越錠三郎返書 中越錠三郎↓葵園会	(明治37年) 8月31日	切紙	9	「義烈」書付 葵園会	(明治37年)	切紙	1
②⑨	土師双他郎返書 土師双他郎↓葵園会	(明治37年) 8月31日	切続紙、封筒有	10	葵園会総会につき諸事留 ・家之内すべき要点 ・旧一〜七連区名簿	年未詳	罫紙綴(14丁)	1
③⑩	久田督返書 久田督↓葵園会	(明治37年) 8月31日	切紙、封筒有	11	法事につき買入等必要物品書上 印「太田」	年未詳	切紙	1
③⑪	某氏返書	(明治37年) 8月末日	切続紙	12	十七義士墳墓順書上	年未詳	切続紙	1
③⑫	河辺志徒磨返書 河辺志徒磨↓葵園会	(明治37年) 9月1日	切紙、封筒有	13	十二義士追悼法会につき大乘寺配 置図	年未詳	切紙	1
③⑬	奥村則英返書 奥村則英↓葵園会	(明治37年) 9月1日	葉書	14	祭辞包紙	年未詳	包紙	1
③⑭	藤江外茂男返書 藤江外茂男↓男爵本多家事務所	(明治37年) 9月2日	葉書	36	その他			
③⑮	大久保鉄三郎返書 大久保鉄三郎↓葵園会	(明治37年9月) 3日	切紙、封筒有	1	戒名書付 幽遠院冬厳日道居士	明治4年12月11日	切紙	1
③⑯	吉村寅太郎返書 吉村寅太郎↓葵園会	(明治37年) 9月3日	切続紙					

2 十二士碑銘案 明治32年10月 罫紙 1

戸水信義撰

3 井原氏追弔会入用書上(後欠) (明治36年) 切紙(断簡) 1

4 白流会の隆盛を祈る書 (明治38年) 罫紙綴(2丁) 1

孤山

5 十二士碑従二位公御揮筆 年未詳 絹本、包封有 1

(朱印)菅原斉泰

IV 学芸

41 文学

1 歌詠百人選記 享保8癸卯天11月下浣 大本(木版29丁) 1

撰者菊岡沾涼、書林江戸日本橋福井宗兵衛、彫工吉田宇白

2 平家物語評判拔書写 安永2年巳11月 袋綴(82丁) 1

貞方

3 女有職亭文庫 文政元戊寅歲彫刻 大本(木版216丁) 1

画工岡田法橋玉山、書林京寺町通錢屋惣四郎・江戸日本橋前川六左衛門・

大阪心齋橋敦賀屋九兵衛

4 復讐金譚五月曙写 天保9戊戌年仲秋 袋綴(33丁) 1

無名子序

5 千字文 天保9戌年10月吉日 袋綴(16丁) 1

浅田亀太郎

6 消息往来・清正状写 万延元年弥生吉日 袋綴(22丁) 1

西村熊吉

7 読玉浦日記 慶応丙寅冬跋 袋綴(21丁) 1

北村太左衛門記、河波有道跋、岡本蔵書

8 送友人序下書 戊寅4月 罫紙 1

9 千字文 甲午1月上浣 袋綴(31丁) 1

(江間)万里

10 千字文 年未詳 袋綴(35丁) 1

平尾氏

11 鸞化七十二筆勢 年未詳 袋綴(20丁) 1

12 ひらがなけいこ本越前まんざい 年未詳 袋綴(6丁) 1

北国下道中

番号	標 題	年 月 日	形態	点数	4 論説	明治辛巳14歳1月2日	袋綴(20丁)	1
13	新編広集字書 印「平尾」	年未詳	小本(木版440丁)	1	・卷二 雲山、印「石真」	明治辛巳14歳1月2日	袋綴(20丁)	1
	・大全	年未詳			5 同声社存稿 編輯並出版人藤田維正	明治15年1月10日	書冊(印刷)	2
	・補遺	年未詳			①第一集		22丁	
14	文法等解説書	年未詳	罫紙綴(9丁)	1	②第二集		22丁	
15	実名詞留書(断簡)	年未詳	横帳(断簡3丁)	1	6 同声集(合綴・錯簡)	明治15年4月ほか	合綴(錯簡)	2
16	品詞用法留書(断簡)	年未詳	横帳(断簡4丁)	1	編輯並出版人藤田維正			
42 漢学(漢籍等・漢詩・作文)								
・漢籍等								
1	孫子国字解 荻生茂卿(徂徠)著、荻生道濟校	寛延庚午春序	袋綴	12	7 訳文筌蹄拔萃 一山隠士写	甲申(明治17年)9月	袋綴(4丁)	1
	①卷一 始計		40丁		8 漸々文稿 文会友社(印)	明治21年4月30日	書冊(印刷6丁)	1
	②卷二 作戰		28丁		・第四号		②51丁	
	③卷三 謀攻		33丁		9 芦隱先生老子答問書 勝舜改復	4月中旬	袋綴(20丁)	1
	④卷四 軍形・卷五 兵勢		53丁		10 先覚之言・盲人之杖 比良雄(平尾)	年未詳	横帳(19丁)	1
	⑤卷六 虚实		41丁		11 書経天地拔書覚 平尾所持	年未詳	横帳(16丁)	1
	⑥卷七 軍争		47丁		12 大学小解	年未詳	袋綴(30丁)	1
	⑦卷八 九変		36丁		13 漢語解留帳	年未詳	横帳(19丁)	1
	⑧卷九 行軍		52丁		14 詩経上写	年未詳	袋綴(4丁)	1
	⑨卷十 地形		37丁		15 莊子拔萃	年未詳	罫紙綴(17丁)	1
	⑩卷十一上 九地		47丁		16 名家文集	年未詳	袋綴(12丁)	1
	⑪卷十一下 九地		50丁		17 孟子(断簡)	年未詳	大本(断簡1丁)	1
	⑫卷十二 火攻・卷十三 用間		46丁		18 詩経(前後欠)	年未詳	仮綴(断簡47丁)	1
2	盲人之杖・乱勿開 平尾	明治10年3月22日	横帳(17丁)	1				
3	政記	明治10年10月5日	横帳(22丁)	1				

19	小学(前後欠)	年未詳	仮綴(断簡5丁)	1	32	道立明舎詩題	年未詳	袋綴(22丁)	1
20	人情及修身及雜言録(錯簡)	年未詳	仮綴(錯簡4丁)	1		一山平尾先生(鑑太郎)批点、一溪石坂隱士(真次郎)著			
21	礼記元(後欠)	年未詳	仮綴(断簡8丁)	1		・卷之一			
	・漢詩					夏之部			
22	三体詩附録	明治11年11月4日	横帳(22丁)	1		秋之部			
	碌々生所有					冬之部			
23	海棠園合集	己卯(明治12年)第1月	袋綴(18丁)	2	33	雜部	年未詳	野紙綴(9丁)	1
	①卷之上					自作詩集			
	致堂横山孝誼夫著					一溪隱士(石坂真次郎)			
	②卷之下					・卷之一			
	蘭蝶津田氏桂依之著				34	致堂二稿	年未詳	袋綴(22丁)	1
24	漢詩草稿	明治14~16年	袋綴(73丁)	1		横山孝誼夫著、臣北莊誠謹校			
	一山々人(平尾鑑太郎)					・卷之一			
25	金蘭社詩集	明治壬午15歲1月	袋綴(5丁)	1	35	行余文社詩文集摘秀	年未詳	野紙綴(5丁)	1
	一溪隱士(石坂真次郎)					一山樵徒(平尾鑑太郎)持			
26	百人一首詩題	明治15歲4月8日改之	野紙綴(14丁)	1	36	文天祥正気歌写	年未詳	横帳(3丁)	1
	一溪隱士石坂(真次郎)(印「石真」)					伊志佐加(石坂)			
27	詩集	癸未・甲申兩年度(明治16~17年)			37	漢詩文留帳	年未詳	袋綴(2丁)	1
	一溪後生(石坂真次郎)		袋綴(12丁)	1		・題画山水図			
28	遊医王山記	明治18年6月	野紙綴(10丁)	1		・壬午新年作			
	一溪後生(石坂真次郎)写					・雪夜友人至			
29	詩文稿	明治18年大暑	野紙綴(8丁)	1		・立春日小集			
	日本古今名家詩文圭玷新評		書冊(印刷)	3		・梅辺酌月			
	発行所団々社、持主兼印刷人岡田愛蔵、編輯人総生寛					・春日閑居			
	①第36集	明治18年10月5日	32頁		38	詩文集	年未詳	袋綴(13丁)	1
	②第51集・附録	明治19年5月20日	20頁			・卷之一			
	③第53集	明治19年8月20日	28頁			夏日舟行限韻歌	ほか		
31	道立明舎詩吟	年未詳	野紙綴(12丁)	1					
	一山平尾先生(鑑太郎)批点、一溪石坂隱士(真次郎)著								

番号	標 題	年 月 日	形態	点数	49 作文留帳	明治14年6月～明治16年3月	袋綴(29丁)	1
39	漢詩文下書 ①「宋太祖豁達」 平尾鑑太郎	年未詳	切紙	6	・石坂真次郎稿 ・観陸軍練錬記 ほか			
	②「賈誼曰」		切紙			明治15～17年	罫紙綴(15丁)	1
	③「洞房孤枕」		切紙		・陸軍士官生矢野金弥(桃溪閑人)			
	④「寒玉音前集」		切紙		・乗鉄道汽車記 ほか			
	⑤「日西天ニ没シ」		罫紙		・作文留帳 幼年生平尾乙作	明治17～18年	袋綴(43丁)	1
	⑥「風来四面晚涼生」		切紙					
40	文章梯航拔萃	年未詳	袋綴(36丁)	1	・仁徳帝登台咏和歌記 ほか			
41	詞及歌詩帳	年未詳	罫紙綴(83丁)	1	宿題作文(前欠)	10月11日	切紙(断簡)	1
42	漢詩文留帳	年未詳	罫紙綴(6丁)	1	・庄田孝親評			
43	詩集	年未詳	横帳(16丁)	1	・作文留書 平尾鑑	4月	こより綴(3丁)	1
44	漢詩文(断簡) 梧堂逸心ほか	年未詳	切紙(断簡)	1	・自治論			
45	漢詩文(断簡)	年未詳	罫紙(断簡)	1	・作文留書 平尾鑑	5月	一紙	1
46	漢詩文留綴(錯簡) ・作文	年未詳	仮綴(錯簡8丁)	1	・読関原軍記			
47	宿題作文 平尾鑑太郎所持(印)	明治8年10月16日	袋綴(6丁)	1	・作文留書 平尾鑑	5月	一紙	1
	・加越能三洲ノ地形及ヒ金城ノ険不険之記				・名竹隣説			
	・吾郎島菊見ノ記				・作文留書 平尾鑑	6月	一紙	1
	・金沢市街ノ記							
	・硝子灯ハ何益あるや				・題加藤肥前望富士山図			
48	宿題作文表紙(断簡) 平尾鑑太郎所持(印)	明治8年10月23日	切紙(断簡)	1	・作文留書 平尾鑑	7月	こより綴(2丁)	1
					・孝文皇帝論			

58 作文留書

平尾鑑

こより綴(2丁) 1

・小春出遊記

・画山水ノ図二題ス

59 作文留書

平尾鑑

こより綴(2丁) 1

67 作文留書

・兼六園二遊ノ記

・尾山神社ノ神門ヲ観ルノ記

・紅葉ヲ見ル記

60 作文留書

平尾鑑

一紙 1

68 和文漢訳留書

・源頼光ノ事ヲ記ス

61 作文留書

平尾鑑

こより綴(3丁) 1

69 作文留帳

70 作文留書(断簡)

43 歴史・軍事(日本史・中国史・西洋史・軍事)

・日本史

1 甲府徳川家宣覚書

2 松梅語園拔書

舟山貞明

3 懷宝略武鑑

江戸日本橋須原屋茂兵衛板

4 日本外史抜書

①日本外史一ヨリ

平尾

②日本外史五ヨリ

③日本外史十二ヨリ

④日本外史十五ヨリ

芳山書所持

5 横井小楠宛藤田東湖書状(写真)

藤田虎之介↓横井平四郎

7月

8月

8月

9月

9月

9月

10月

年未詳

袋綴(16丁) 1

袋綴(26丁) 1

小本(木版20丁) 1

横帳 4

28丁 4

9丁 4

13丁 4

34丁 4

一紙 1

假綴(断簡8丁) 1

野紙綴(6丁) 1

年未詳 1

年未詳 1

年未詳 1

年未詳 1

享保19年 1

文政11戊子年 1

明治10年 4

12月28日 1

切紙(印刷) 1

番号	標 題	年 月 日	形態	点数	・軍事
6	楠木正成墓碑文写 朱舜水著、万里江間真書	年未詳	袋綴(20丁)	1	18 武具短歌図考 水藩稲葉通安輯、讀岐深井彪序撰、西村熊吉所持
7	松雲院殿御夜話	年未詳	袋綴(55丁)	1	・巻上、巻下
8	油井根元記抜書	年未詳	袋綴(16丁)	1	19 甲陽軍鑑末書 有沢永貞写
9	回答案(断簡) 石坂真次郎	年未詳	罫紙(断簡)	1	①下巻下「一〇五」 ②下巻下后「六〇九」 ③下巻下后「六〇九」(錯簡)
10	・中国史 史略(支那) 西村俊造所持	明治9年11月	中本(木版31丁)	1	20 武田軍陣備等留帳 21 名所之巻聞書
11	元明史略 薫山	明治9年5月27日	横帳(21丁)	1	年未詳
12	・巻二 十八史略抜書 薫山所持	丑(明治10年)	横帳(23丁)	1	44 地誌・紀行・日記 箱根草
13	二十一史疑事録 一山野史鑑識	明治18年11月6日	袋綴(16丁)	1	1 編集人福住正兄、出版人鋹泉宿福住九蔵(印「万翠楼」)、 売払所七湯鋹泉宿穴山篤太郎
14	・巻一 中国人名注釈書付(断簡) ・西洋史	年未詳	横帳(断簡4丁)	1	①第一集 ②第二集 ③第四集
15	Note of Medieval History (中世史英単語帳) 印「石坂」(石坂真次郎)	明治19年10月15日	罫紙綴(10丁)	1	2 越中立山登攀の栞 鷺の一羽
16	Question and Answer in Medieval History (中世史問答) S. Ishisaka (石坂真次郎)	明治19年10月31日	袋綴(18丁)	1	3 重修加越能大路水経(後欠) 土谷義休著、大沢君山重修
17	西洋史学習帳	年未詳	罫紙綴(14丁)	1	4 重修加州大路水経 巻之上 ・重修越中大路水経 巻之中 ・重修能州大路水経 巻之下 大日本六拾六箇国覚 平尾所持

5	鳥指等につき日記	年未詳	横帳(3丁)	1					
6	羽咋・鹿島郡周辺図(断簡)	年未詳	切紙(断簡)	1					
7	東京紀行留	年未詳	袋綴(8丁)	1					
8	曹洞宗大本山永平寺全図	年未詳	一枚(印刷47×64) 袋有	1					
	印刷所大正印刷株式会社								

45 英語

1	Essays by myself Correct by Mr. Benton	明治17年8月	罫紙綴(50丁)	1					
	(石坂真次郎)								
2	Composition (英作文留帳)	明治18年10月1日	罫紙綴(16丁)	1					
	石坂真次郎								
3	Composition (英作文留帳)	明治18年10月1日	罫紙綴(11丁)	1					
	石坂真次郎								
4	Etyymology (語源)	明治18年	罫紙綴(6丁)	1					
	(石坂真次郎)								
5	Travelling at Tokyo (東京紀行)	(明治20年4月)	袋綴(24丁)	1					
	英語例文等留帳	年未詳		3					
6	①英語例文(1)、代数学留帳		罫紙綴(6丁)						
	②英語例文(3)、人体・代数・幾何留帳		罫紙綴(10丁)						
	③英語例文(4)、留帳		罫紙綴(24丁)						
7	文法抜記(英単語帳)	年未詳	横帳(3丁)	1					
8	英語箋(単語帳)	年未詳	袋綴(21丁)	1					
9	英文留帳	年未詳	罫紙綴(6丁)	1					
10	例文留帳	年未詳	罫紙綴(5丁)	1					
11	英語例文留帳	年未詳	罫紙綴						3
12	英文法留帳	年未詳	罫紙綴(8丁)	1					
13	英文法・幾何留帳	年未詳	罫紙綴(23丁)	1					
14	英作文留帳(断簡)	年未詳	仮綴(断簡6丁)	1					
	石坂真次郎								
15	英単語書付(断簡)	年未詳	罫紙(断簡)	1					

46 数学(算術・代数・幾何)

1	合率比例并鏈比例	明辛巳14歳11月19日	袋綴(15丁)	1					
	一溪隠士(石坂真次郎)								
2	対数用法	明治18年6月13日	袋綴(12丁)	1					
	平尾所持								
3	改正洋算例題	年未詳	こより綴(25丁)	1					
	・卷之二・卷之六								
4	求積雑問解式	年未詳	横帳(5丁)	1					
5	計算雑問帳	年未詳	罫紙綴(4丁)	1					
6	加減乗雑題	年未詳	罫紙綴(4丁)	1					
7	分数留帳	年未詳	罫紙綴(6丁)	1					
8	算術例題留帳	年未詳	罫紙綴(3丁)	1					
9	減法乘法等留帳	年未詳	横帳(4丁)	1					
10	数学例題(断簡)	年未詳	切紙(断簡)	1					
11	分数雑問留(断簡)	年未詳	仮綴(断簡8丁)	1					
12	改正例題洋算答留(錯簡)	年未詳	仮綴(錯簡22枚)	1					

番号	標 題	年 月 日	形 態	点 数	26	明 治 19 年	野 紙 綴 (24 丁)	1
13	代数学等計算帳 ・代数 石坂真次郎	年未詳	小帳(18丁)	1	27	幾何備忘録 (石坂真次郎) 無心膽子	横帳(野紙5丁)	1
14	代数学留帳 ・代数学(北條時敬先生口授) ・代数学初歩階梯入門 ・二次方程式単矩合 ・多根二次方程式 ・二項法式(分数并負根) ・級数 ・連立改正 ・記号用法	年未詳	仮綴(袋綴74丁)	1	28	幾何初学例題図解	袋綴(57丁)	1
15	代数学等計算帳	年未詳	冊子(14丁)	1	29	平面幾何学留帳	袋綴(4丁)	1
16	代数学計算帳	年未詳	小帳(12丁)	1	30	平面幾何学留帳	小帳(8丁)	1
17	代数学計算帳	年未詳	小帳(8丁)	1	31	平面幾何学留帳	こより綴(25丁)	1
18	代数学計算帳	年未詳	袋綴(14丁)	1	32	平面幾何学留帳	袋綴(13丁)	1
19	数学記号用法留帳	年未詳	横帳(28丁)	1	33	応用幾何学留帳	小帳(4丁)	1
20	雑比例秘撮留(断簡)	年未詳	横帳(断簡)	1	34	幾何学留帳	こより綴(9丁)	1
21	単利活秘題等留(断簡)	年未詳	横帳(断簡)	1	35	幾何学留帳	野紙綴(20丁)	1
22	方程式計算留(断簡)	年未詳	横帳(断簡)	1	36	図形計算帳	野紙綴(9丁)	1
23	開平法秘撮題留(断簡) ・幾何	年未詳	横帳(断簡)	1	37	平面幾何学留帳(断簡)	仮綴(断簡12丁)	1
24	幾何初学例題図解 石坂所有	明治18年5月	袋綴(11丁)	1	47	他科目・教育		
25	幾何学留帳 飛羅雄(平尾)	明治18年6月	横帳(18丁)	1	1	地文学問答大意 石坂所有	横帳(野紙18丁)	1
					2	備忘録 伊志左賀(石坂真次郎)	横帳(23丁)	1
					3	各年次就学科目等留帳 (明治18・19年)	野紙綴(8丁)	1
					4	教授筆記	野紙綴(42丁)	1
					5	学習帳 鑑(平尾鑑太郎)	野紙綴(44丁)	1
					6	周代五家の組合 著作者戸水寛人、発行所法理研究会、発売所有斐閣書房	書冊(印刷11頁)	1

7	亜非利加之前途	明治32年1月17日	書冊(印刷23頁)	1	17	動植物及金石学留帳	年未詳	横帳(31丁)	1
	著者戸水寛人、発行所有斐閣書房				18	理学大系書付	年未詳	折紙	1
8	河波先生行状案	年未詳	罫紙綴(2丁)	1	19	度量衡等留帳	年未詳	袋綴(7丁)	1
	門弟子謹識				20	修身学留帳	年未詳	横帳(17丁)	1
9	棕園河波有道先生略伝草稿	年未詳	袋綴(12丁)	1	21	学校管理法要旨等留帳	年未詳	横帳(23丁)	1
	門生平尾鑑太郎識				22	学校関係留帳	年未詳	罫紙綴(2丁)	1
10	棕園河波有道先生ノ略伝	年未詳	袋綴(10丁)	2	23	学习帳	年未詳	罫紙綴(37丁)	1
	門弟平尾鑑太郎謹識								
11	若隠氏論理新編	年未詳	袋綴(36丁)	1	48 諸芸・その他				
	添田寿一訳、井上哲次郎校閲、印「石坂」				1	本因坊等碁写	年未詳	袋綴(27丁)	1
	・卷之一(第一～第五章)				2	碁写	年未詳	袋綴(80丁)	1
12	植物学・詩題留帳	年未詳	罫紙綴(10丁)	1	3	使者廻添物図解	年未詳	卷子・彩色	1
	・植物学					小笠原大膳大夫長時・小笠原右近大夫貞慶・小池甚之丞貞成・石山三右衛門政			
	・清新詩題春之部					治・石山儀左衛門豊政・木村利右衛門重常・片野清太左衛門宣信			
13	命題論留帳	年未詳	こより綴(27丁)	1	4	他国越之使者作法等伝書	年未詳	卷子	1
	印「石坂」					・積物上巻			
	・第六章 命題ノ種美					小笠原大膳大夫長時・小笠原右近大夫貞慶・小池甚之丞貞成・石山三右衛門政			
	・第七章 命題ノ反对					治・石山儀左衛門豊政・石山彦兵衛知方・三宅豊大夫清明			
	・第八章 命題ノ転換及ビ直接推度法					・使者廻下			
	・第九章 実位語分积法及ビ定義				5	太刀作法等伝書	年未詳	卷子・彩色	1
14	高等科金沢小学校第二年生歴史草稿	年未詳	罫紙綴	3	6	新撰農業往来 改正国尽入	明治4年辛未10月	小本(木版18丁)	1
	①高等科金沢小学校第二年生歴史教授草稿					治・石山儀左衛門豊政・石山彦兵衛知方・三宅豊大夫清明			
	②高等科金沢小学校第二年生教授歴史草稿				7	舞台演目書上	3月25日	切続紙	1
	③高等科金沢小学校第二年生教授算術草稿				8	養蚕概略	年未詳	袋綴(印刷11丁)	1
15	物理学留帳	年未詳	横帳(26丁)	1					
16	生理書留帳	年未詳	横帳(19丁)	1					

番号	標 題	年 月 日	形態	点数	参考品
9	剣術等組合書上	年未詳	切統紙	1	
10	剣術につき案内状発したる分人名書上	年未詳	切統紙	1	・香木 年未詳 香木
11	血骨筋肉法(中等科習字法)	年未詳	罫紙綴(4丁)	1	
12	小謡留帳 平尾蔵書	年未詳	袋綴(28丁)	1	
13	舞囃子・狂言番組書上	年未詳	切紙	1	
14	生花園	年未詳	袋綴(25丁)	1	
15	書道論書留帳	年未詳	罫紙綴(19丁)	1	
16	天地上下区分図	年未詳	一枚 34×23	1	
17	懷素顏真卿論草書等書上(断簡) ・懷素顏真卿論草書 ・習字の順序	年未詳	仮綴(断簡4丁)	1	

平尾文庫解説

概要

平尾家は数代にわたり加賀八家の本多家に仕えた家であり、本多家中では近習頭や公用方書写役などを勤めた家柄である。本文書群は史料総数が五一一件六八五点、内容は多岐に渡るが、平尾家および学芸に関する史料が主となる。

史料は四つの大項目、二九の小項目と参考品に分類している。時代的には、大項目の「Ⅰ 家」、「Ⅱ 親類石坂家」の項は近世史料が多く、「Ⅲ 葵園会」「Ⅳ 学芸」については近代の史料が中心となるが、明確に区分できない史料も多く、本目録では時代区分による項目分けはしていない。史料としては、寛延二年（一七四九）平尾家の由緒帳下帳が古い年代のものと同推察される（43・11・1）。由緒帳には、古くは人持組永原左京家に仕えていたことが記されているが、その時期の史料は見当たらない。

また、平尾家は明治三年七月に士族となり、藩の士族方管轄となるはずであったが、「先祖由緒并一類附帳」（当館所蔵加越能文庫「平尾紋三」）には「本多資松当分管轄」とあることから、前年の大凶作の影響により一〇月の由緒帳の提出段階では、いまだ本多家の管轄であったことがわかる。なお、平尾家の宗旨は一向宗、菩提寺は嫁坂下唯念寺であり、定紋は丸ノ内桜、居宅は本多資松元家中風呂屋丁である。

平尾家

ここでは、平尾家の系譜について整理してみたい。藩政期については、当館所蔵加越能文庫「先祖由緒并一類附帳」（平尾紋三「平尾善太夫」）を主に使用し、明治期は「平尾家年譜早見表」（43・11・12）を元に整理している。

平尾家は、由緒帳によれば森部与助知之を初代とし、三代目の知忠から本多家に仕えて平尾姓を名乗っている。初代知之（与助・惣助）は、人持組永原左京に仕えていたとされ、死去年は未詳である。二代知道（惣助）も先代と同様に永原左京

に仕え、正徳二年（一七一三）に死去している。

三代知忠（知平・紋太夫）は、宝永七年（一七二〇）に本多家三代当主政敏に中将組にて召し出されて近習を申し付けられ、正徳五年には四代当主政質から新知七〇石を拝領し（43・13・1）、五代当主政昌のときに御供役、六代当主政行のときに近習詰となる。史料としては、寛保元年（一七四一）の「扶持目録（3人扶持）」（43・13・2）、翌二年の「拝領目録（白銀3枚）」（43・13・3）が確認できる。そして、母方の姓である平尾を名乗るように命じられ、宝暦一三年（一七六三）に死去している。

四代知崇（善太夫・善右衛門）は、馬廻組山森藤右衛門の給人日向紋左衛門の子であったが、延享二年（一七四五）に本多家五代当主政昌の給人山岡武大夫の子となつた後に三代知忠の養子に入る。寛延元年（一七四八）、六代当主政行に中小

平尾文庫目録 分類と点数

分類番号	項目	件数	点数
I	家 (171件 188点)		
43.11	家・由緒	12	13
43.12	勤仕	48	49
43.13	知行	15	15
43.14	家計	19	20
43.15	土地	7	11
43.16	交際・親戚	28	33
43.17	縁組	13	17
43.18	葬儀	18	18
43.19	藩政・一般	11	12
II	親類 石坂家 (67件 143点)		
43.21	家・由緒	7	11
43.22	勤仕	12	19
43.23	家計・土地	8	28
43.24	縁組・交際	8	32
43.25	葬儀	20	36
43.26	医薬	12	17
III	葵園会 (65件 111点)		
43.31	7回忌	3	3
43.32	13回忌	9	9
43.33	17回忌	22	28
43.34	25回忌	12	13
43.35	33回忌	14	53
43.36	その他	5	5
IV	学芸 (208件 243点)		
43.41	文学	16	16
43.42	漢学(漢籍等・漢詩・作文)	70	91
43.43	歴史・軍事(日本史・中国史・西洋史・軍事)	21	26
43.44	地誌・紀行・日記	8	10
43.45	英語	15	19
43.46	数学(算術・代数・幾何)	37	37
43.47	他科目・教育	23	26
43.48	諸芸・その他	17	17
	参考品 (1件 1点)	1	1
	計	511	685

将組にて召し出されると(43・12・1)、翌二年に御加用役となり、銀を拝領している(43・13・4)。宝暦一三年には知忠が死去したため、遺知から五〇石を相続し(43・13・5)、以降は近習目付、収納奉行、式台取次番、席目付、馬奉行と数々の職務に就き、寛政一〇年(二七九八)に死去している。

五代知新(治郎吉・善太夫・善右衛門・雪山)は、寛政元年に本多家六代当主政行に中小将組にて召し出され(43・12・7)、年中銀七枚を拝領し(43・13・6)、御加用役となる。その後、取次番加入、近習目付を勤め、同一〇年に知崇が死去すると、七代当主政成により遺知五〇石を相続する(43・13・7)。享和二年(二八〇二)には、平尾家の一類である本多家給人山岡儀右衛門の閉門中に不手際があつたとして、知行を一〇石減らされて逼塞処分を受けている。その後、文化元年(二八〇四)八代当主政礼に許されて取次番となり、同四年には席目付加入、そして格別の趣により一〇石加増される(43・13・8)。以降、普請会所下奉行、御抱守、衣類方などを勤め、同一四年に銀を拝領している(43・13・9)。文政九年(二八二六)には格別の趣により、さらに二〇石加増されて禄高は七〇石となり(43・13・10)、物頭並近習頭を命じられる。そして、同一二年に当主の江戸出府の御供を勤めた後、天保六年(二八三五)に隠居を命じられ、隠居料五人扶持を拝領(43・13・12)、雪山と改名して弘化二年(二八四五)に死去している。

六代知近(紋三・乙作)は、本多家同様、いわゆる加賀八家の一つである前田土佐守家の給人永島武左衛門の三男であつたところ、五代知新が河波幸助二男の九内を婿養子にするも死去したことから、本多家九代当主政和の代の天保五年、知新の二番目の娘との婿養子がなされている(43・11・4)。翌六年に知新が隠居を命じられると家督を相続し(43・13・11)、大組に召し出されて御加用役となる。以降、取次番をはじめ、さまざまな普請御用を勤めており、安政三年(二八五五)には作事奉行、翌四年には近習頭を命じられ、幕末維新期には一代当主政均の江戸出府、越前葉原への出張、京都詰の御供を申し付けられている。明治三年(二八七〇)の改正によって士族に指し加えとなり、切米高は五三俵二斗一升であつた。同一〇年に隠居、同一六年に死去している。

七代知終(善太夫・善太)は、五代知新が最初に婿養子とした九内の息子であつたが、九内が死去したときは幼少であつたことから、あらたに婿養子となつた知

近が相続し、幼少の知終は知近の養子となつた。その後、安政三年に本多家一代当主政均に中小将組にて召し出され、年中銀七枚を拝領し(43・13・13)、翌四年には御加用役に命じられている。そして、文久二年(二八六二)に石坂友右衛門娘の竹と婚姻したとおもわれる(43・17・157)。明治元年には銀を拝領するかわりに知行を五石引き直され(43・13・14)、同五年には名を善太と改め、同一〇年に相続するも、同一二年には隠居し、同三年に死去している。

なお、善太以降についても「平尾家年譜早見表」(以下、早見表)から、ある程度うかがうことができる。早見表からは善太には六人の子どもが確認できるが、これについては善太の長男である鑑太郎が婚姻した際に作成された「平尾鑑太郎統書」(43・17・11①)からもうかがえる。

まず、長男の鑑太郎は文久三年に出生し、明治一二年に家督を相続すると、同五年(早見表では同二四年とある)に永島懐夾の娘の叶と婚姻し(43・17・11・12)、本多家に雇われている。そして、同三年に葵操業場に勤務したことが確認できるが、同三五年には葵製糸機業場理事に就いていた鑑太郎が、男爵本多政以と執事太田伊豆茂に宛てて辞職願を提出している(43・12・47)。なお、鑑太郎には松雄と竹雄という二人の男子がいたことが確認でき、松雄は海軍少将として舞鶴工廠第一造兵部で終戦をむかえている(43・12・48)。

長女の椿は、慶応元年(二八六五)に出生し、一度婚姻するも平尾家に戻つたようである。明治一七年には西村俊造と再縁している。二人の間には、同二〇年定俊が誕生しており、「平尾鑑太郎統書」には、定俊の弟として達郎の名があることから、二人の男子に恵まれていたことがわかる。

次男の真次郎は明治元年に出生しているが、同四年に母の実家である石坂家の当主であつた茂が死去したことから、末期養子として石坂家に入っている。その後、石坂家の人間として同二〇年に上京し、東京の軍医学校に入校する。そして、同二四年に卒業して長崎の佐世保病院に赴任するも、翌年には東京の軍医学校に戻り、同二六年に再び卒業、呉鎮守府病院に赴任している。また、同二七年には三等軍医となり熊本に向かつている。

三男の乙作は明治二年に出生し、同一八年には上京して士官学校に入校している。同一二年に幼年卒業、青森県の営所に赴き、一旦東京に戻るも同二三年に士官

学校を卒業して再び青森県に戻っている。翌二四年に士官となり、第五連隊付第一中隊附属となる。そして、翌二五年には正八位叙任、同二六年には中尉となっている。

次女の富田幾は明治六年に出生、同二二年に奥田頼太郎と婚姻し、同二四年には頼之助が生まれている。翌二五年には上京したことが確認でき、同二六年には二人目の男子である大陸が生まれている。

そして、明治十一年に三女として常が出生しているが、同二四年の鑑太郎続書では独身であることがわかるのみで、その他の経歴は未詳である。

以上が平尾家の系譜となるが、そのほかの史料についてはここで概観し、史料の紹介としたい。「11 家・由緒」「12 勤仕」「13 知行」は年未詳のものも多きが近世史料が中心であり、状態も比較的良好なものが多く、妻が病気のために看病するとして休みを願い出(43・12・10)、その後快方により復帰を希望するなど(43・12・11)、本多家に仕える平尾家の日常が垣間見られる。また、「18 葬儀」は文化期から明治初年までの史料が現存しており、御出帳や参詣帳、諸事留によって当時の葬儀のあり方をうかがうことができる。

一方で、「14 家計」「15 土地」「16 交際」は、明治以降の近代史料が中心となる。「14 家計」では、明治初年のものは少なく、通帳(43・14・5)が残る程度であるが、明治後半では平尾家に関する資金の帳簿(43・14・9・11・14・15)、そして真次郎が養子となつた石坂家に関する帳簿(43・14・10)があり、近代の金沢で生活する家の資金の流れをみることができるといえる。

「15 土地」については、現存する点数が多いとはいえないものの、墓地券(43・15・1)や地券(43・15・3)といったものから、練兵場建設に関するものなど(43・15・4)、有用な史料が残されている。なお、明治三三年に軍隊の通行のために道を拡張することとなり、平尾家では隣接していた土塀や物置を新築したことが早見表に記されているが、「作事二付覚帳」(43・15・5)、「石垣土蔵覚書」(43・15・6)は、それを裏付ける史料である。

そして「16 交際」については、東大七博士として著名な戸水寛人(父は戸水信義)の動静に関するものがある(43・16・11・12)。戸水家も本多家の家臣であり、戸水信義の娘との婚姻に関するもの(43・17・13)が残されていることから、戸水

の娘である五月と鑑太郎の弟である乙作が婚姻していた可能性もあるが、残念ながら史料からは確認できない。また、幕末期に御医者として前田家に仕えていた江間三吉とのやりとりもみられるが、「本多閣下草庵遊行の日程につき書簡」(43・16・15)、「本多閣下草庵枉駕の日程につき書簡」(43・16・16)、「本多閣下来遊一件」(43・16・17)とあるように、本多家当主が江間の草庵を訪問する内容である。最後に「17 縁組」については、大きく二つの事例が確認できる。どちらも前述したが、一つは文久二年の平尾知終と石坂竹の婚姻史料であり、もう一つは明治二五年に婚姻した平尾鑑太郎と永島叶の婚姻史料である。幕末期と明治中期の婚姻に関する史料であることから、比較検討することによって時代の特徴を明らかにすることも期待できる。

親類 石坂家

平尾文庫には親戚筋である石坂家に関する史料群があり、明確なものを「親類石坂家」として分類している。残念ながら石坂家については由緒帳が現存しておらず、詳細な経歴は未詳である。文庫内の石坂家に関する各項をもとに現段階で整理すると、石坂家は人持組富田治太夫家の家臣で、源左衛門(五郎右衛門も同一人物と推定)―茂右衛門(久作)―友右衛門(義十郎)―茂(小太郎)と続いたようである。ただし、安永期に友右衛門なる人物が家督を相続するとの史料があり(43・21・1)、系図の変更も含めた慎重な検討が必要である。

源左衛門(五郎右衛門)については、「22 勤仕」「23 家計・土地」に天明から寛政期にかけての史料があり、加増に関するもの(43・22・3・5)、引越に関するもの(43・23・1・4)が確認できる。

茂右衛門は、享和の頃に小池八左衛門の娘と婚姻しており(43・21・2)、「石坂久作婚姻一件」(43・24・3)は、そのときの縁組に関する詳細な史料である。茂右衛門には五人の子がいたが、嫡男であった猪之助は文化二年(一八〇五)に出生するも、同四年に死去したため(43・21・2)、同年に出生した次男の友右衛門が家督を相続することになる。三男の安五郎は、文政三年(一八二〇)に出生(43・21・4)、天保四年(一八三三)には養子に出ている(43・21・5)。長女の数については、文政

五年に出生し、天保十一年に本多家の家臣大瀬伝平に嫁いでいる(43・24・4)。四男の鍵三郎については、文政十一年に出生したこのみ判明している(43・21・4)。茂右衛門自身に関しては、文化一四年二月に役義断により指扣をうけたこと、そして翌月には有免となったことがわかる(43・22・7)。

友右衛門については、妻の静との間に嫡男小太郎と、その姉の竹が生まれている。妻の静は安政二年(43・25・5)に死去、友右衛門自身も体調を崩し(43・25・7)、文久元年(二八六二)七月に死去しているが、このときの葬儀関係の史料が多く残されている(43・25・9・20)。

小太郎については史料がほとんど残っておらず、明治四年(二八七二)に死去したことが知れる程度であるが、跡を継ぐ者がいなかったことから、姉の竹の嫁ぎ先である平尾家の次男真次郎を養子に迎えている。

この石坂家に関する史料の特徴として、まずは石坂家の屋敷に関する史料がまとまっていることが挙げられる。石坂家は天明六年(二七八六)末から七年にかけて御小人町に引越したようである(43・23・2)。袋上書には、「天明七年未正月御小人町西谷与三兵衛家、自分家替」とあることから、西谷与三兵衛から家を取得したということであろう。また、寛政十二年(二八〇〇)には新たに土蔵を建てたようで、袋上書には「寛政十二年申とし 土蔵新出来」と記載されている。また、この頃には宅地が町奉行支配に変更されたようで、袋の裏書には「寛政十年申三月町支配二相成、改而売券買券一卷しらへ」とある。この件に関しては、史料から検討する必要があるが(43・23・3)、文化期の絵図面なども残されており(43・23・4)、金沢に居住する武士の屋敷を検討する上で、好個の史料であることは間違いないだろう。

そのほか、医薬についての史料が残されていることも石坂家の特徴といえる。例としては、「薬調合等覚」(43・26・1)、「綿甲覚書等書上」(43・26・4)、「柴胡等薬調合につき書状」(43・26・8)といった薬の調合に関するもの、「流行病療法等書上」(43・26・3)、「暴汚病療法等につき公儀より書付覚」(43・26・5)のような治療に関するものがあるが、なかには犬毒について解毒法をまとめたものもある(43・26・6)。これらの史料から、石坂家の歴代のなかで医療を生業としていた者がいたと推定されるが、平尾家から明治四年に養子に入った真次郎が、軍医学校

に進学して医者となったこととも繋がりがあられるようにおもわれる。

葵園会

葵園会は、本多家の旧家臣によって設立された有志の会と考えられる。明治二年(二八六九)に金沢城二ノ丸御殿で本多家当主の本多政均が暗殺されると、当時の家臣らは実行犯の身柄引き渡しを藩に要求、それが叶わなかったことから、家中では敵討ちが計画される。同館所蔵河地文庫「先君敵討之義につき書状等」(39・21・6)では、暗殺実行犯の山辺沖太郎・井口義平が刑務所から出てくるようなことがあれば論に及ばず、兩名が処刑された場合には多賀賢三郎らを「怨敵」とすることが合議で決定している。そして、同四年一月に本多弥一をはじめとする家臣によって敵討ちが決行され、多賀賢三郎・菅野輔吉・岡野悌五郎を殺害するに至り、実行した本多弥一らは翌五年に刑が執行された。

この葵園会では、敵討ちを実行した本多弥一ら旧臣一二名(二義士)の追悼法会を実施していた。平尾家の当主鑑太郎も委員として招集されており、七回忌(43・31)・一三回忌(43・32)・一七回忌(43・33)・二五回忌(43・34)・三三回忌(43・35)の史料群が確認できる。

簡単にまとめると、七回忌の書類綴には参詣人の名簿、出納簿、碑名費用や法会諸役僧侶の書上、各種領収書などが綴られている(43・31・1)。

一三回忌では、参詣人帳(43・32・6)、寄付金などの留帳(43・32・3)、領収書綴(43・32・4)、そして旧主君家である本多家の現当主本多政以から御菓子料を贈られたことを記した書簡が水引とともに残されている(43・32・1)。

一七回忌でも参詣帳(43・33・8)、寄付金などの留帳(43・33・9)、入費調理帳(43・33・10)、領収書綴が確認できるが(43・33・2)、ここでは一二義士の墓地に関する史料がみられることが特徴であろう(43・33・1)。また、これまで以上に法会に関する具体的な史料があり(43・33・2・14・15)、史料が良好に残されている感がある。そのほか、一三回忌と同様、当主本多政以からの御菓子料に関する書簡もある(43・33・7)。

二五回忌については、案内状に関する史料が他の回忌よりも多い(43・34・1・

7・10・11)。また、元本多家の家臣の出で、東大七博士として著名な戸水寛人からの葵園会に対する書簡もある(43・34・2)。

そして、二三回忌については、追弔委員を招集する回状が残されている。松田潤次郎・神田忠孝・太田伊豆茂の連名で、林安敬・山口泉・平尾鑑太郎・鰐部重衡・赤尾直松・河地権三郎に宛てて出されており、平尾家、そして河地家の当主の名がみえる(43・35・2)。また、二五回忌と同様、案内状がある一方(43・35・3)、他の回忌では確認できない史料として、追悼法会の案内に対する返書三七点が確認できる(43・35・4)。すべての返書が現存しているとはいえないが、表に整理してみると、住所が確認できる者は概ね石川県内に居住しているなかで、東京居住者や、軍人として出征中に軍事郵便を用いた者もいる。また、不参加の者が多い一方で、家族であるのか、複数名での参詣希望を伝える者もいる。そして、名前をみると、小川仙之助として北越戦争で激戦を繰り広げ、明治期には能登の郡長を歴任した小川清太、尾山神社祀官や金沢市長を勤め、明治三三年には華族に列した奥村栄滋、農商務省に勤務して奥村と同様華族に列し、のちに貴族院議員となった今枝直規、市町村制施行による初代金沢市長となった稲垣義方といった面々が名を連ねており、旧本多家の家臣ではない者が確認できる。彼らが葵園会の一員であるとは考えにくく、招待されたものとおもわれるが、いずれにせよ旧本多家の家臣のみで法会が執行されたのではないことがわかる。つまり、明治期に執行された本多家一二義士の法会は、地域における旧藩頭彰とも連動して捉えるべきものといえよう。

葵園会33回忌返書人一覧(「十二義士三十三回忌追悼法会案内につき返書」43.35-4)

	姓 名	住所など	出欠		姓 名	住所など	出欠
1	上田 藤太郎	江沼郡山中村	参詣	20	豊田 執事	金市森町三番丁	不参
2	富田 勝磨	東京市本郷区台町一	不参	21	武村 弥吉	金沢市下中島町八十一番地	参詣
3	干潟 孝太郎		不参	22	松井 敬勝	石川県立第二中学校長	参詣
4	浅井 郁太郎	東京麹町区平河町五ノ三七	(参詣)	23	奥村 栄滋	八阪町二十二番地	不参
5	渡瀬 政礼		不参	24	今枝 直規		不参
6	高島 究孝	石川県立養学校内	不参	25	稲垣 義方	六斗林三丁目	参詣
7	堀 俊明		参詣	26	吉田 雄一郎		参詣
8	吉見 五兵衛		不参	27	柳原 至		参詣
9	今村 勇次郎		不参	28	中越 錠三郎		不参
10	小川 清太	金沢市高岡町	参詣	29	土師 双他郎		不参
11	箕浦 恭五郎		参詣	30	久田 督		参詣
12	西永 公平	石川県金沢市長町四番丁 弁護士西永公平事務所	参詣	31	某氏		参詣
				32	河辺 志徒磨		2人参詣
13	西村 俊造	西砺波郡北蟹谷村	3人参詣	33	奥村 則英	母衣町	不参
14	大森 孝次郎		不参	34	藤江 外茂男	同市東馬場町九十二番地	3人参詣
15	奥田 頼太郎	小松	不参	35	大久保 鉄三郎	味噌蔵町下中丁	不参
16	山森 隆		参詣	36	吉村 寅太郎		不参
17	芝木 小三郎	石川県羽咋郡西増穂村字大福寺	2人参詣	37	南部 辰	出征第二軍第三師団歩兵第五旅団司令部陸軍少将 ※軍事郵便	不参
18	宮野 直通		参詣				
19	志筑 光一郎		参詣				

平尾文庫 史料撰

I 平尾家

・平尾紋三由緒書

(金沢市立玉川図書館近世史料館加越能文庫「先祖由緒并一類附帳」平尾紋三)

(表紙)

明治三年

先祖由緒一類附帳

本多資松当分管轄

平尾紋三

本国相知不申

加州金沢出生

六十二歳

平尾紋三知近トセヨリ

御切米高

一、五拾三俵式斗壹升

姓相知不申

定紋丸ノ内核 居宅本多資松元

家中風呂屋丁

私義、実者前田故土佐守給人永島故武左衛門三男二御座候処、九代本多故播本多政和

磨守代天保五年故善大夫二番目娘江智養子相願、同六年十二月養父善大夫義

隠居申付、私江家督無相違申付候後数役申付、安政四年四月近習頭申付、同五

年故從五位江戸表江出府之節供申付、元治元年越前半原駅江浪士屯二付、越本多政均

前御加勢之供申付、明治元年二月京都詰之供申付、同三年七月御改政二付、

士族二被指加、元知行七拾石之處、御切米本高之通御引直被仰付候

先祖由緒

一、五世之祖父

森部故与助知之

永原故左京二相勤罷在候処、病死年号相知不申候

一、五世之祖母

由緒等伝承不仕候

一、高祖父

森部故惣助知道

永原故左京二相勤罷在候処、正徳二年七月病死仕候

一、高祖母

平尾故玄得娘

享保二年正月病死仕候、且玄得義於越中富山町医師御座候処、宝永二年

病死仕候

一、曾祖父

平尾故紋大夫知忠

三代故安房守宝永七年中小将組江呼出近習申付、四代故安房守正徳五年十一

月新知七拾石給、本苗森部御座候処、母方苗字平尾二相改候様申付、宝暦十三

年十月病死仕候

岩田故伝左衛門家来

一、曾祖母

小塚故宅右衛門娘

安永三年九月病死仕候

一、祖父

平尾故善大夫知崇

善大夫義、実者御馬廻組山森故藤右衛門給人日向故紋左衛門せかれ二御座候

処、延享二年五代故安房守給人山岡故武大夫子分二仕、平尾故紋大夫養子二

相願候処、願之通申付、六代故安房守寛延元年呼出、宝暦十三年養父紋大夫義

病死仕候二付、遺知之内五拾石相続申付、寛政十年四月病死仕候

七代故安房守給人

一、祖母

伊藤故清丞娘

寛政三年八月病死仕候

一、養父

平尾善大夫知新

善大夫義、六代故安房守寛政元年呼出候後数役申付、七代故安房守同十年父

善大夫義病死仕候二付、同年七月遺知五拾石無相違相続申付、享和二年十二

月一類右安房守給人山岡故儀右衛門閉門中取捌方之義二付、知行之内拾石減

少逼塞申付、八代故安房守文化元年四月免許、同四年十一月格別之趣を以、先

達而減少申付候知行拾石加増申付、九代故播磨守文政九年六月格別之趣を以

二拾石加増、都合七拾石給近習頭申付、同十二年三月江戸表江出府之供申付、

天保六年十二月隠居申付、隠居料五人扶持給、弘化二年五月病死仕候

定番御歩

北村故太郎左衛門娘

実方一類

前田故土佐守給人

永島故武左衛門

同

永島故武左衛門娘

一、祖父

天明四年正月病死仕候

一、祖母

右武左衛門者曾祖父二御座候、安永五年五月病死仕候

一、父

天保六年十月病死仕候

長故甲斐守給人
小泉故与大夫妹

一、母

安政五年七月病死仕候

本多資松普代家来

西崎鉄四郎養曾祖母

士族隠居

島九左衛門妻

一、姉

一、妹

士族

平賀与吉郎

一、養をひ

右亡養母義、私姉二而平賀故左兵衛妻二御座候

士族

島鉄太郎

一、をひ

同
高橋篤

一、実をひ

同
島嘉久右衛門

一、同
右島鉄太郎等母義、私妹二而島九左衛門妻二御座候

本多資松普代家来

西崎鉄四郎実母

一、めひ

右母義、私姉二而西崎鉄四郎養曾祖母二御座候

士族

田中八百七妻

一、同

右母義、私妹二而島九左衛門妻二御座候

一、宗旨者一向宗、寺者嫁坂下唯念寺

右、私先祖由緒并一類如斯御座候、此外近キ親類縁者無御座候、以上

一、養母

文化十四年十月病死仕候

一、妻

明治二年二月病死仕候

一、養子

右善太義、実者故善大夫先養子故九内悴二御座候処、養子二相立申候

士族

石坂茂姉

一、嫁

右万延二年九月引請申候

平尾鑑太郎

一、孫

右私養子善太嫡子二御座候

平尾真次郎

一、同
同二男二御座候

平尾乙作

一、同
同三男二御座候

平尾善太娘壹人

士族

安達武左衛門

一、実をひ

同

永島々都

一、同

本多資松普代家来

西崎鉄四郎

一、同

同

小国左一郎妻

一、同めひ

同

西崎鉄四郎姉妹

一、同

右安達武左衛門等父義、私養方実弟西崎故十郎兵衛二御座候

一、同姓無御座候

明治三十年十月
士族方

本多資松当分管轄
平尾紋三(印)(判)

・戸水当選および人材養成の件など書簡(43・16・11)

拜啓、時下益御清安奉賀候、管功論余程よい処ニ帰着致来候哉ニ被存候、此度の御手紙の御趣旨などは大賛成ニ候、必らず満足せらるへき後継者顕出すへしと確信罷在候、決してかゝる問題ニきふくすへからすてある、達人は達観すへしてある、至誠貫徹の暁は到来せん、本問題は宜しく之を呑むへし、呑まるへからすてある、

戸水の当撰は痛快ニて御座候、対山森問題などは小生の念頭ニ毛頭無之候、彼ハ世界の戸水ニ御座候、戸水といひ桜井といひ、揃ひも揃ふて金沢方、本多町より模範的代議士を打出したるは、満天下の億兆として人意を強ふしたるの概あり振つたる哉、
今度帰省仕候て金沢の隠れたる英雄を訪問し、産業界の前途に未頼母敷ものあるを確認せり、為国家御自愛可被下候、

本多家人物養成ニ思を致され候跟、歴々として見るへきものあり、慎むへきものは徳なる哉、磨くへきものは心なる哉、拜全宗の党や、もすれは全力万能論を主唱す、品ハさるものといふし、世には世渡の拙き為めに福分なしとおもふものあり、何ぞ凶らむ、福分なきか故ニ世渡の拙きことを、御事業の上ニ付き不景気の状況拝承仕候、南米航路廃絶相成候為め、此地方ニ於て迷惑仕候もの不尠候、先般承ハり候へは御注文は南米より来る哉ニ伺ひ候か、それ等ハ如何、かゝる不景気の年には閑を利して(見本を持つて)御巡遊最も妙なり、出たりひつこんだりの妙を知らず、ひつこんだりひつこんだりでは永々相滞候と同様面白からず、少閑を得は宜しく外出すへしてある、貴意如何、

市長問題ニ付、御内意御洩らし旨辱く奉存候、さてもく思ひもよらぬことを承及候もの哉、御安神被下度候、小生は来月早々上京可仕候、閑人ハ兎角世

の惑を起す種子ニ候、慎み可申候、よしなきわきニ御座候、先つ各々如此御座候、早々不慮

五月廿六日
平尾老兄

(評野平太郎)

座右

追て松田兄方の御言伝難有拜承仕候、御茶話の序又々宜敷御伝可被下候

・戸水博士の世界併呑説につき書簡(43・16・12)

今日、此頃ニ至ル迄金沢ヨリ来り候者ハ、戸水博士之話先第一ニ出候トハ、実ニ盛ナル事ニ御座候、

過日者又安川学校之今川覚神来り、戸水侯ト小松中学校ニテ落合、不相替博士之世界併呑説ヲ拜聴致シタル由申居候、小松ヤ七尾ノ如キ人間ニハ、世界ヲ取ツタ所ロガ「タツタ」地球一ツジャ位ヲ聞カセ候ハ妙薬ト奉存候、

戸水もエラク御座候ガ、桜井も立派ナ者ニ御座候、此上中橋二三宅位ヲ出シ候ナラバ、加州藩毛肩幅広ク相成候乎ト奉存申候、敬具

五月二十八日夜

(奥田頼太郎)

鑑太郎様

乍筆末、御令堂様、御令室様ヲ始メ御一統様へ宜敷奉願候

II 親類 石坂家

・犬毒解毒ノ方一件(43・26・6)

①犬毒解毒ノ方につき書状

口叙

昨夕在御来臨、初而得貴顔大慶仕候ハ、犬毒解毒ノ二方主治等書記上リ申候、小子家伝フ方ニ而、是迄犬毒之症ニ相用試申所別条無之候、夜前少不快、病臥罷在、難尽草々乱筆御許宥、又来春ハ此表へ御出府之節御来臨希入候、不

臘月九日

（後世）
道寿

（通本館）
松崎公

②犬毒解毒ノ方

（表紙）

犬毒解毒ノ方

富城医官

浅井某伝方

犬毒解毒方、予家ニ伝ノ方ニテ犬毒ノ症五・七日ノ内ニ用、置ケハ犬毒解毒シテ生害犬毒ヲ患フナキ方也、予此藥劑ヲ用、試トコロ不治ト云コトナク、然トモ脈沈細舌上黄黒一ノ回浮黄風ヲ悪モノ、又眼中茶赤色ナル者ハ難治

一方

未
石膏

八錢

未
炎并艸

八錢

未
猪牙

一錢半

未
黄連

五錢

水干
朱砂

八錢

未
馬便心

三錢

馬便心トハ馬糞也、六月中ニ製ス、十日斗日ニ干シ、其後三日水干、又日ニ干ス后為未ト、右分量十四貼ニシテ、輕キ症ニハ七貼重キ症ニハ十四日用ユ、尤一日ニ一貼空心ニ水ニテ用ユ、禁毒三七日魚物、五辛、麵類、犬毒ノ疵口ノ付藥ハ前方ニ黄柏三錢相加ヘ、砂糖ニテトキ疵口ニ付ケ、尤疵口ヨリ風不入ヤウニ木綿切ニテ卷キ置クコト、付藥ハ日夜二三度モ付替ルコト

一方

犬毒衝心ノ症ニ用ユ、尤此ノ藥劑ヲ用、大小便ニ惡物ヲ下ス、解毒シテ時ニ愈

未
大黃

四錢

未
牽牛子

三錢

未
防風

六錢

未
斑猫

一錢

未
雄黃

二錢半

麝香

二錢

右為未一日二三錢目宛、水ニテ用ユ

III 葵園会

・追悼法会にて本多政以より御菓子料頂戴一件（43・32・1）

①本多政以より御菓子料送付につき書簡

拜啓、益御清祥奉賀候、陳者明四日十二士追福大乘寺ニおゐて御營之旨、即政以様御聞被成、御菓子御贈被成度段御申出御座候、依而右代料金七円荷物進候間、甚御手数宜御取斗被下度奉存候、右得芳意度、草々不一

九月三日

太田猶良

大橋豊敬様

二白、本文之趣御社会江も可然御通報所信御座候也

・葵園会諸君に呈する書（43・34・2）

葵園会諸君ニ呈スル書

吾力旧君本多氏ノ旧臣僚一社ヲ設ケ、名ヅクルニ葵園会ヲ以テス、蓋シ旧君

ノ徽号ヲ取りタル者ナラン、会ノ主眼タルヤ、上ハ旧君家ヘ対シ情誼ヲ尽シ、下ハ旧同僚ノ幸福ヲ計ルニアリ、今茲丙申八月某日ヲトシ總會ヲ開キ、社員相聚リ親シク胸襟ヲ開キ往事ヲ語ラント欲シ、書ヲ以テ信義ノ陪席ヲ促サル、然レトモ金沢ハ山河百里ノ外ニアリ、僅々兩三日子ヲ費シ以テ往反スヘキニ非ス、故ニ其行ヲ果サズ、以テ遺憾ト為ス、因テ一言ヲ書シ會員諸君ニ奉呈ス、夫レ葵ハ湿草ナリ、其種類多シ、加茂祭典ニ取りテ以テ冠リ、或ハ簾ニ挟ム者ハ所謂ニ葉葵ト称スル者ナリ、蓋シ其質毒ヲ解スルヲ以テ之ヲ用フルナラン、本多氏ノ始祖助秀君ノ父右馬允秀光君ハ加茂ノ社職タリ、故ヲ以テ葉葵ヲ取りテ徽号トセリ、大成武鑑ニ記スル所斯ノ如シ、諸国ノ本多ヲ以テ氏トシ、徽号立葵ヲ用フル者ハ拳テ君ノ後裔ナリ、然ルニ本多氏ノ系譜及ヒ七家々譜ニハ、政重君ノ高祖父弥八郎忠正君、徳川清康ニ仕へ、葵ノ徽号ヲ賜フトアリ、又日本外史ニ、清康東三河ヲ平ケ歸途伊奈ニ会飲ス、正忠（正忠ハ蓋忠正君ノ誤也）盤穀ヲ献ス、籍クニ葵三葉ヲ用フ、清康喜テ此ヲ以テ徽号トナストアリ、又近ゴロ大学助教授田中義成ノ説ニ、徳川信光ノ旗ニ加茂朝臣ト自書ストアリ、三河ニ加茂郡アリ、加茂社ノ領所ナリ、是等ヨリシテ考フレハ、徳川氏ハ加茂社人ノ後ナランカ、加茂ニハ葵ヲ用ユ、故ニ徳川氏ノ徽号ニ葵ヲ用フルナランカトノ説アリ、国史眼ニハ加茂ノ朝臣トアリ、又羽田某ノ説ニハ加茂社人ノ末子トアリ、徽号ノ起原ハ前説ト合ハザレトモ、彼レ此レヲ参照スルニ、加茂ノ葵ヨリ起因シタル者ノ如シ、今ヤ葵園ヲ以テ其会ニ名ツクル者、基本ヲ忘レサルニ出ツルヲ知ルナリ、意フニ凡ソ事物ハ其初テ成立スルヤ頗ル堅固ナリ、然レトモ歲月ヲ経ルニ從ヒ種々ニ毒セラレ、終ニハ衰頽靡絶ニ歸スル者少カラズ、本会ハ諸君ノ精忠高義ヨリ成立シタル者ナレバ、其憂ナシト雖モ社会ノ變遷計ラレズ、若シ将来幾多ノ障害楚毒ヲ生スルモ、葵ノ質以テ能ク其毒ヲ解除シ、社名ヲシテ永遠ニ繼續セシメン事ヲ深く希望スルノミ

明治二十九年七月

戸水信義頓首拝言